

# 統計行事

茨城統計 (九月號目次)

## 市町村

(表名)	(報告期限)
綿織物産額調(特定町村)三	日
絹織物及絹織交織物産額調(〃)	日
物 價(〃)	五日
賃 錢(〃)	五日
人口動態調査票	五日
工業農産物共二	十五日
(十一月)	
綿織物産額調(特定町村)三	日
絹織物及絹織交織物産額調(同)	日
人口動態調査票	五日
其ノ町村入寄留者調	五日
関東農産物蔬菜花卉ノ二十五日	日
夏秋蠶	全日
天蠶及柞蠶	全日

市町村出入人口及現住戸数調 二十日

## 統計調査員

(十月)	
米生産統計	十月中旬
基準票ノ作成	刈取期
坪刈	收穫期
調査票ノ作成	末 日
果實(梨、ブドウ)	末 日
(十一月)	
米生産統計	未日限
調査區結果表ノ作成	全
關係書類整理提出	全
秋季調査中	
アワ、ヒエ、キビ、モロコシ	
ソバ、ジャガイモ、大根、ツ	
ケナ、カブラ、ニンジン、ゴ	
ボウ、ネギ、レンコン、クラ	
イ等	十日

## 初秋の調べ

◆表紙……常陸の名瀑袋田の瀧  
 ◆口繪……潮來に於ける縣主催統計講習會…本協會活動寫眞の盛況  
 ……労働調査主任者打合せ…北相馬郡井野村統計調査員一行…眞潮  
 村水害状況…古里、河間、戀瀬各村調査員の記念撮影

農村更生と映畫教育(巻頭言)……編輯同人【一】  
 農作物統計論……農林省統計官 長 畑 健 二【三】

統計問訪 理想郷の鹽田村……【九】  
 生々發展する栗原村……【二〇】

景勝千波湖から年十五萬圓の鯉……【四】  
 實務 道場統計調査の榮……【七】

統計相談所 各地統計雜信……【三】

昭和一十一年春蠶收繭高……【七】  
 熱暑にふさはしい潮來の統計講習……【六】

本縣の菜種の産額……【四】  
 労働統計實地調査主任者會……【二】  
 本年度本縣麥實收高……【四】  
 春蠶百八十三萬貫……【四】  
 全國の水稲作況……【四】

讀者の領分 内閣統計講習會に出席して……磯原町 長 瀬 昇【五】  
 視察記……林 村 小松崎雅一【五】  
 調査員就任當時の憶ひ出……大同村 大谷 武雄【五】  
 縣北見學の一日……大和村 六 統 生【五】  
 優良町村視察……協會鹿島郡支部長【五】

短文 俳 句……丹 四郎選【六】  
 川 柳……前田猶春選【六】  
 ……山中緋郎選【六】

統計課員異動……【五〇】  
 統計調査員異動……【五一】  
 町村統計主任者異動……【五二】  
 寄贈圖書……【五三】  
 編輯後記……富岡如夢【五四】



### 農村更生と映畫教育

活動寫眞が遊戯的宣傳の時代は既に過ぎて、今や社會構成上まきに缺くべからざる一要件とも稱すべき地步に到達し、映畫教育さへ盛んに唱道されてゐる。  
本縣統計協會が率先映寫機を備付、統計の普及を圖ると共に更に進んで統計を基礎とするところの經濟更生に拍車をかけ、よき村、よき部落の構成指導に努力しつゝあるは、寔に機宜に適したものと云つてよからう。

從來、活動寫眞といへば、直ちにチャンバラを聯想されたのであつた、悲戀邪曲を聯想されたものであつた、然らずんばアクどい宣傳に惰するものが多かつた。  
統計協會にありては是等の弊を避け、フィルムを厳選して大人といはず子供といはず、觀て面白くて爲になるもの、知らず知らずの間に大きな感銘を遺すもの等を考慮に入れ、現に各地に公開してゐるが觀衆は四五百名より一千名を越ゆるの盛況で、内三割位の小學兒童を數へてゐる。

而して畫面に現はるゝところの一例を示せば、黎明を求めて村民全体が更生運動の第一線に立ち、老いたるも幼きも、營々として夫々の部落に極ぎ、小學兒童の如きも放課後、一つの分擔に立つて更生の役割を勤めるといふ筋などがある。  
場面には寒素なる農村が展開されてゐる、觀衆は大方酔乎たる農人である。畫面に躍る人物もまた觀衆と同境遇におかれる朴訥な農人であり、農村の子弟であるが故に、感銘まことに切なるものあるやに聞く。

斯くして植ゑつけられた感銘、斯くして印象された協働努力の光景は、折にふれ、事に當つて必ず蘇り、必ず有効に考へさせられるに違ひない。  
何事によらず眼によつて教育指導するは百の説法にも優ること勿論である。況んや今日の如く多忙なる時世にありては、殊に其の感を深うせざるを得ない。



長畑 健二 官 計 統 官

## 農作物統計論 [五]

農林省統計官 長畑 健二

### 四、豫想收穫高數列の分析 (續)

更に最も顯著なることは第一回豫想よりも第二回豫想が常に小さく數字が出る傾向のあることである。十九ヶ年中昭和八年を除いて、他は全部、事實上第一回豫想よりも、第二回豫想が減少してゐるのである。昭和八年は米の生産統計調査方法の大改正が行はれた年であるので、特に例外的な變化を示して居るのであらう。

曩に筆者は正しい調査に於ける實收高と豫想收穫高との開きの起る原因は豫想收穫高調査時期以後に於て偶然的に、突發的に起る氣象状態の變動に在るのでと述べて置いたのであるが、大正六年以後に於ける實收高と豫想收穫高との開きが右の理論に依つて矛盾なく説明され得るであらうか。

先づ第一回豫想と實收との開きが第二回豫想と實收との開きよりも一般に大きく現れることに就いての問題である。第一回豫想が九月二十日現在調査であるに引換へ第二回豫想は十月末日現在調査であつて此の間四十日の日數を經過して居るのである。従つて第一回豫想當時は概して出穂直後或は登熟初期であつて、其の後の氣象に支配される、危険も大なるに第二回豫想の時期となれば大部分登熟を終り、早場地方は收穫も終つて居る状態であつて、最早や大休稻の作柄が確定して居る譯であるから、第一回豫想に比し、第二回豫想が實收により多く近づくのは當然

の事である。即第一回豫想收穫高と實收高との開きが、第二回豫想と實收との開きよりも大きいといふことは、第一回豫想と第二回豫想との調査の時期より必然的に發生するものであつて、此の事あるが爲に兩調査の正確性が云々さるべき筋合のものでは全然ない。平年よりの氣象の偏異の起るプロバビリティー(危険率)は第一回豫想時期の方が第二回豫想時期よりも遙に大きいといふことに外ならない、第二の傾向として先に述べた點即第一回豫想は實收高よりも大きくなり第二回豫想は小さくなるといふ點は如何に説明し得るであらうか。抑々豫想收穫高が實收高より大きくなると云ふことと換言すれば實收高が豫想收穫高より減少するといふことの原因として理論的に肯定し得るものとしては、豫想收穫高調査以後に於ける氣象條件の偶然的惡化(豫想し得ざる惡化)を挙げねばならぬ。又遂に實收高が豫想收穫高より増加し得る場合としては、氣象條件の偶然的適順化を挙げねばならぬ。さうすると第一回豫想よりも實收高が減少した年といふものは、九月二十日以後に於て氣象の偶然的惡化が起つたと云はざるを得ない。大正六年以降十九ヶ年中昭和二年、五年、八年を除いて他の年は何れも九月二十日以後に於て何等かの氣象の偶然的惡化があつたものと見なければ實收高の減少した説明が付かない。所が前にも述べて置いた様に我國の豫想收穫高調査に於ては調査時期以後に於ける氣候は平年並正常に經過するものとの假定を置くものであるから豫想調査以後に於ける氣象が平年並に進行すれば、豫想通りの收穫が得られ、平年並より悪くなるれば、實收は減じ、良くなれば増加する譯である。然るに過去十九ヶ年中第一回豫想に於ては夫れ以後に氣象の悪くなつた年が十六ヶ年で良くなつた年が三ヶ年といふことは一寸奇異の感に打たれはしないだらうか。第一回豫想以後の氣象は正常よりも多くの場合、惡化する傾向ありといふことであれば、此の場合の正常といふ概念は少し良く見過ぎた場合ではないだらうか、假りに數字的に云へば正常の値が少し高過ぎはしないだらうか。普通に我々が正常値と云へば其れからの各個体の偏差は其の兩側に平均に分布したものである様に思ふ。そこで私は第一回豫想調査に際して「九月二十日以後の氣象は平年並に進むもの」と假定するといふことは理論的には兎も角、實際上は「適順に進行する

とせば」といふ様な意味に使はれて居るのではないかと思ふ。この考へ方はアメリカに於て使はれて居る正常作況と同じ様な概念である。アメリカの正常作況とは旱魃、降雹、害虫其の他の有害なる原因に犯されざる完全に健全なる状態に在り、斯る良好なる状態に於て當然得らるべき發育と發達とを遂ぐる作況であると述べられて居るが、第一回豫想以後の状態の推移を右の如く假定して調査したものとすれば、第一回豫想より實收の減するの普通の年であつて、増加するのは餘程作柄の良好な豊作年に限られることになる譯である。事實上昭和二年、五年、八年は最近では豊作の年であつて、此等の年に限り、實收が第二回豫想より増加して居るのである。大体同様な豊作年であつた。大正八年、九年は第一回豫想より實收が減じて居るけれども其の減少率〇・五%以下で殆んど問題にならない。

斯くの如く第一回豫想が概して實收高より大きく出る傾向のあることに就いては、第一回豫想の調査時期たる九月二十日以後に對して設けられる、氣象條件の假定即正常なるものゝ意義の解釋を前記の如く下すことによつて、兎に角、一應の説明が付くのである。然らば第一回豫想の場合と逆關係に在る第二回豫想の場合には如何に説明し得るか。第二回豫想が正確なりと主張し得る爲には第二回豫想調査以後の氣象は「正常」より適順化する傾向が多く、爲に實收高に於て意外の増收を來すのであると云ふことが根據付けられなければならない。所がこゝにいふ「正常」の意味を嚴密に平均的と解する限り、平均よりの偏異が例年プラス(増)に傾くといふことはおかし、これは第一回豫想の場合の様に「正常」の解釋を多少變更せねば筋道が通らぬ。第二回豫想の時に設ける「正常」といふ假定は普通の場合よりも稍悪い状態の場合を想像して居ると云ふことが出来る。これは第一回豫想の時には普通より適順に氣象の進行することを假定したるのに對し著しく對蹠的な假定であつて、兩者矛盾して居るものとも申されぬことはない。第一回豫想の時は順調なる経過を假定し、第二回豫想の時は不順なる経過を假定するといふことは、これ文けから考へると矛盾とも云へる。併し之は考へ様によつては人間心理の微妙なる動きの現れではないだらうか。

第一回豫想の九月二十日に於て、將來發生するであらう何等かの被害を豫定して之を豫想收穫高の中に含ましめることは、實地觀察主義の調査方法に於ては困難であつて、これはどうしても九月二十日の状態が其の儘順調に進行するものと見るのが人情である。所が日時の経過と共に、各種の被害が各地に發生して、第一回豫想より次第に作柄が悪化して行く。十月末日頃ともなれば、先づ總ての被害(悪材料)は一應出盡す譯であつて、調査員の第一回豫想の時の想像はこゝに完全に破られて、客觀的状态は第一回豫想に比し悲觀的とならざるを得ない。この時に於て第二回豫想を行ふのである。今迄出盡した被害にのみ目を奪はれて、これに執着するの結果は將來の收穫を悲觀することゝなり第二回豫想を過分に見積るの結果に立到ることゝなる場合が、相當に多からうと思ふ。

之を要するに第一回豫想が實收よりも大きく出る傾向があり、第二回豫想が小さく出る傾向のあるといふことは各豫想調査の時期に於て、それ以後の客觀的状态の推移を「正常」と假定する場合の「正常」の取り方の如何に依ることであつて、決して作柄の實地觀察が誤つて居るとか、觀察が杜撰であるといふことに據るものではない。豫想收穫高は右の如く、調査當時に於ける實地の作柄を觀察した結果に基いて、一定の假定の上に計算されたものであつて、私は之を前に  $H = mg$  なる關係で表示することが出来ることを述べた。茲に謂ふ  $m$  が第一回豫想の時には大きくなつて居り、第二回豫想の時には小さくなつて居るに過ぎないのであつて、 $g$  に何等誤があるのではない。 $C$  の絶對値を知ることが出来ないが、 $C$  の比率ならば知ることが出来る。

各年の豫想收穫高の其の前五ヶ年平均の豫想收穫高に對する割合を求めれば、之が豫想調査當時の作柄の比例數を表すことゝなることは前記の式から直に導き出すことが出来る。第五表は其の計算値である。

## 第五表

### 第一回豫想及第二回豫想ノ作柄割合及實收高作柄割合

第一回豫想收穫高

第二回豫想收穫高

年	前五ヶ年平均第一回豫想A		其ノ年第一回ノ作柄比B		前五ヶ年平均第二回豫想C		其ノ年第二回ノ作柄比D		實收高、 作柄比
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
大正十一年	六〇、二二、三三〇	三三、八六、七三〇	一〇三・一	五五、三三、七五〇	六〇、五八、四一〇	一〇四・一	一〇五・三	一〇五・三	
同十二年	六〇、八四、六四〇	三三、四四、三三〇	五三・七	五八、四八、一五〇	六〇、〇一、〇三〇	九八・三	九八・一	九八・一	
同十三年	六〇、六九、六六〇	三三、三三、七五〇	五三・七	五八、〇〇、一五〇	五九、四四、七五〇	九八・六	九八・六	九八・六	
同十四年	六〇、一三、一六〇	三三、四七、七五〇	一〇三・二	五九、五九、〇五〇	五九、五九、〇五〇	一〇三・五	一〇三・五	一〇三・五	
昭和元年	五九、七三、〇三〇	三三、四三、二一〇	九八・六	五九、八〇、四八〇	六〇、七九、九八〇	九八・五	九八・五	九八・五	
同二年	六〇、〇三、五三〇	三三、四三、二一〇	一〇三・四	五九、七〇、七二〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・六	一〇三・六	一〇三・六	
同三年	五九、七三、〇三〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、七〇、七二〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同四年	六〇、八三、八六〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、八〇、四八〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同五年	六〇、八三、八六〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、八〇、四八〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同六年	六〇、九三、八六〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、八〇、四八〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同七年	六〇、九三、八六〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、八〇、四八〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同八年	六〇、六三、八六〇	三三、四三、二一〇	一〇三・五	五九、七〇、七二〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・七	一〇三・七	一〇三・七	
同九年	六〇、三三、八六〇	三三、四三、二一〇	九八・一	五九、七〇、七二〇	六〇、七九、九八〇	一〇三・三	一〇三・三	一〇三・三	
同十年	六〇、三三、八六〇	三三、四三、二一〇	九八・九	五九、七〇、七二〇	六〇、七九、九八〇	九八・九	九八・九	九八・九	

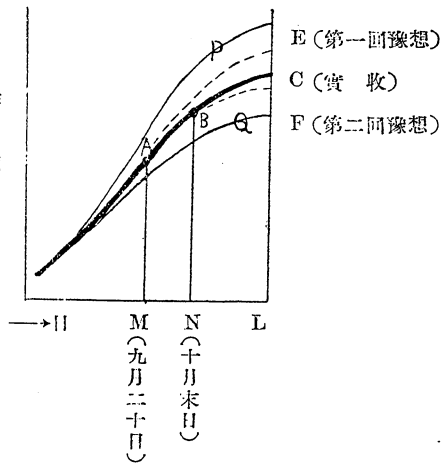
右の第五表の(3)欄、(6)欄、(7)欄を比較していただきたい。作柄比が平年作柄一〇〇を上下すること一%以内の年である昭和四年、全七年を除いて残り十二ヶ年に就いて見ると、其の前五ヶ年平均よりの増減の方向は第一回豫想、第二回豫想、實收高共總て一致して居る。即大正十二年、十三年、昭和元年、六年、九年、十年の六ヶ年は前五ヶ年平均よりも減、大正十一年、十四年、昭和二年、三年、五年、八年の六ヶ年は増を示して居る。然も増の場合も、減の場合も、共に第一回豫想より第二回豫想の方が其の増減率が大きく、又實收は第二回豫想より更に大きくなつて居て、茲には完全に規則性が發見せられる。

此の事を別言すれば豊作の年は作柄割合は時期の経過と共に次第に上昇し、凶作の年は逆に時期の経過と共に作柄割合は次第に下降するといふ命題を得ることが出来る。筆者は之を我國米統計に於いて發見せられたる米作に關する一の法則なりと信ずる。

例へば昭和九年は近來にない凶作年であつた事は周知の通りで、實收高は五一、八四〇、一八二石といふ近年にない減收を示したのであるが、此の年の第一回豫想は五七、〇二六、七八〇石を示し實收より五百萬石以上も多かつたのであるが、第二回豫想は五〇、七四六、一四〇石にして、實收より逆に百萬石以上も少く、第二回豫想の見積過少が當時云々されたものであつたが、之を作柄割合で見ると第一回豫想は九一・一%第二回豫想は八三・二%實收は八二・八%であつて、作柄が次第に悪化して行つた経過がはつきり數字に出て居るのであつて、第二回豫想が特に作柄を過少に觀察したといふ結果にはなつて居らない。昭和十年に就いても、昭和六年に就いても同じ様な傾向が現れてゐる。又昭和五年は六千六百萬石の實收があつて其の當時での大豊作年であつたが、第一回豫想は六千六百八十六萬石なるに、第二回豫想は第一回豫想より減じて六千十七萬石と報ぜられ、如何にも第二回豫想が作柄を過少に觀察した様に見受けらるゝが、之も前の作柄割合を見ると、必ずしも然らず、第一回豫想は一〇九・八なるに第二回豫想は一〇・六、實收は一・二・五と後になり次第作柄割合は上昇して居ることが判るのである。前記の米作法則が誤りなく數字に反映されて居るのである。

更に理解を易からしむる爲今迄述べた事を圖に依つて、説明して置かうと思ふ。

太線のABCは正常の成長曲線を表す。P曲線は生育良好なる場合の成長曲線を表す。Qは生育不良なる場合の成長曲線を示す。VMは九月二十日現在に於ける平年の作柄を、BNは十月末日現在に於ける平年作柄を示す。CLは實收を、E1は第一回豫想を、E2は第二回豫想を各々表すものとする。第一回豫想に於ける作柄Aは、以後正常線(太線)の上を通るものと假定せば、實收に於ては必然的にCに行かなければならない。此の争は第一回豫想の過去



くは、十月末日に於ける稻の實際の作柄 A、M、B、N の觀察で誤があると云ふのではなく、A 或は B 點のそれ以後の経過過程の假定の如何に依つて生ずるのに過ぎない。第一回豫想の場合には曲線 A、E と假定し、第二回豫想の時には曲線 B、F と假定するのは怪しからぬ、何れの場合も正常成長曲線(太線)の如く假定せねばならぬのだと云へばそれ迄のことであるが、現在の我國米作豫想の實情は大体右の如くである。豫想收穫高統計を利用せんとする者は右の點に關し豫め一應の理解を持つて居てもらひ度い。併し右の議論は我國全体を綜合しての大休論であつて、之を道府縣毎に詳細に見た場合は必ずしも右の如く簡單には行くまいと思ふが今それ迄研究するの暇がない。讀者の寛恕を乞ふ次第である。

十九ヶ年の平均は實收の平均と一致しなければならぬことを物語る。然るに實際の場合に於ては、實收より第一回豫想が多く出るといふことは、A の九月二十日以後に於ける経過を生育良好なる場合の曲線 P の如く假定すること即點線 A、E の如く経過するものと假定することである。この結果は必然的に E 點が U 點の上位に来ることを示す。逆に第二回豫想の場合に於ては B 點が正常成長曲線の上を動くものと假定せず、生育不良の場合の成長曲線 Q の如く経過するものと假定するからして、B 點は點線 B、F の如く経過し、第二回豫想 F は實收 C より下位に来ることとなる。

何れにするも第一回豫想の平均が實收より多くなり、第二回豫想の平均が逆に少くなる傾向のあるといふことは、決して、九月二十日若

※ ※ ※ ※

統計模範町村を訪ねて……………(6)

※ ※ ※ ※

## スイスに似たる理想郷

### 克く整へ克く治つた鹽田村

……床し、道ゆく人々にも禮節あり……

— 記者



村田鹽た見らか場役

初夏である。  
二毛作に仕立てた麥は將に登熟せんとして、穂先きが黄つほく色ばみ、今年の小麥は莫迦に値がよい、出来もよい、この分で、もう十日も過ぎようものなら麥は満点だ。

かうして麥の秋を喜んでゐる時、一雨また一雨、水田を程よく潤ほして好機逸すべからずと見るや、折角實りかけた麥をば、むぎ／＼青刈りにして間髪を入れず田植の準備に取りかゝる刈る人の思ひも一通りではないが、

刈られる麥もさて、惨めなものである。

何故こんな莫迦げた事をするかと、誰しも訝かしく考へるであらうが、如何に天體觀測の進歩した今日といへども、七日も十日も先きの天候は容易に豫知し難いものである、若し此の雨をのがしたら何時田植ゑが出来るか判らない、畑より田だ、麥よりは米だ、詮じつめれば大の虫を助けるために小の虫を殺すのと同様、麥は青刈にして未熟のままに葬り去つても稲だけは萬難を排して仕立てなければならぬのだ。

那珂郡鹽田村はそれほど大事な田場であり、また天水の恵みを唯一の頼みとする土地柄である。

水郡線玉川村驛で降りると、驛前に待つてゐた小瀬通ひのバスが約十分ばかりで其の役場前迄運んでくれる。

バスを降りると通りが、りの青年が丁寧に挨拶をしてすれちがった、角のおかみさんであらう、女の人がまた挨拶をされた。

此の日、攝氏の三十何度、朝の太陽がギラ／＼と痛いやうな光りを投げて、照りつく大道に立つた私の姿は、汗みどろで、そりや見られた圖ではなかつたのであらう、とても街頭のお辭儀など受けられよう筈はないのだが、歸りしなに自動車を待つべく此の街道ふちに立つた時も、野良へ行く青年が懇懇に挨拶をくれたはまたいゝとして、用水際に遊んでゐた

鬮脈々として連り、緑の風そよ／＼と吹いて涼しいこと限りない。

導かれて事務室へはいると「精神一到何事か成らざらん」とか「人生意氣に感ず」とか格言が壁にベタ／＼はられてあるし何となく禪寺にでも落着いたやうな気がした、裏手の部屋には大きな爐が切つてあつて、そこに竹の自在が吊してある。

晝ともなると吏員一同爐を圍んで雑談に耽けるのだ。

『忠右衛門どんでは三十圓位鯛をあげるツてね』

『豪氣なもんだナ、鯛ともいへねえなあ』

『さうだとも、作次郎ンとこなんざ、鯛で三、四月の暮しを立てゝるんだよ、外に是れといふ収入はないんだし』

『村全体で一年に二三百圓もあがるかな』

『いや、なか／＼そんなところぢやあるまいよ、部落によつて捕れない處もあるが、とれる處へいくと二三十圓あげ

るのは幾らもあるからな』

『村全体で……さうよな、二三百圓かな……』

話はいつしか統計になつて、農家の眞の副業として調べて見ようと迄なつたが、さて此の鯛たるや、多く田の畦などにうけをおいて取るので、一つには朝起きの奨励にもなり、また子供達に生産の觀念を養ふ一助ともなるのだが、畦を荒すといふので、其の筋ではやかましく言つてゐる、一方には盛んに副業を奨励しながら、一方ではそれをいけないといふ、

六つばかりの子供がびよこんとお辭儀をされたには驚いた、驚いたといふよりも汗にまみれた見知らぬ游子にすら、かうして厚き挨拶を忘れない此の土地柄が嬉しくてたまらなかつた。

小さな街頭の一些事ではあるが、これが——此の村全帯を物語る床しい民風の現はれではあるまいか。

役場は街道から一田圃を越えたと突き當りの高臺に、モダンな新しい學校と並んで、これはまた珍寶として永久保存の資格を持つた藁葺きの古家である。

十幾つかの階段を登るとそこに風雅な門があつて、スグ間口の廣い玄關だ。

オーイとおとなへば、オーイと答へる。

武者修業であつたとすれば、遙かの奥の手より出て來つたのは……といふところが、ニコ／＼として私を迎へてくれたのは青年團服に身を固めた統計主任岡崎輝吉さんである。

此の役場は、明治初年の頃、學校であつたのを後學校改築により不用となつたのを役場に居直つたのださうで、繅薬屋根の役場なんて今時滅多に見られない、境内には幾百年かの樹齡を保つたであらう亭々たる老松が、枝を四方に伸べてゐる、松の太木の元に蒲酒な門があつて石段が高く築かれてゐる、遠方から見ればお宮かお寺だ、前方一面に青田を控へて街道の彼方遙かに雜木の山が重なりあつてゐる、後方また青

畦を荒すといふがそれほどでもないのだから餘り拘子定規にするのも考へものだといふやうな話も耳にはさんだ。

さて本文にはいるとして、此の鹽田村は那珂郡の西北部に位し、東西北の三方は山岳を以て村境をなし、南の一面のみが水田續きに玉川村に接し、玉川の次が大宮町で、小瀬方面にも自動車の方が有る。總戸數四百七十二戸、現住人口二千五百、その内農家が四百三十五戸といふから純農の村であるが耕地面積は水田二百二十四町四反、畑百十五町八反しかなく、見る限り山から山の山續きで、一農家當水田が五反一畝、畑が三反六畝、山林原野といへば、開墾など如何なる方法を以てしても到底手のつけられぬ山岳で、耕地は現在以上には何としても擴げられない、だから土地を持たぬ人などは日立鑛山へ働きに出たり、或ひは福島方面の炭鑛に出稼ぎしたりする、其數實に八百と稱せられ、日立へばかりでも五百人からも行つてゐる。

此の村の主なる生産物は米麥で昭和九年度には米が四千六百四十七石、麥類が二千四百六十三石を産し、村の人が一人で一年に平均一石一斗の米を食ふと假定すると二千五百人で二千七百五十石、差引千八百九十七石の剩餘が出来た、其他小麦、大豆、蕎麥、野菜等何れも余分が出て、食糧に不足なんちうことはなかつたが、何しても米麥の値が安いので、肥料代は高む、村は疲憊する、借金が殖える、何處も同じ農村

の行詰つた過程を踏んでゐた矢先きに、昭和十年の冷害を食つて俄然調子は一變して四千六百石からも出てゐた米は二千九百八十五石に減じ、陸稻も半減の惨めを見、剩る處か一般農家を逼じてヒケ月の飯米不足を來すの不幸に陥つた。此の時鹽田は偶々縣の經濟更生指定村にあげられたのである、今にして更生の途を講ずるにあらずんば前途誠に深憂に堪へざるものあるといふことを村民一般に痛切に感じた、そこで先づ村内各農家を以て三十の農事實行組合を設け四石取りの標準を置いて農家を勵ました、穀物受檢組合、養蠶實行組合信用販賣購買利用組合等をも組織し、殊に此の村は古來煙草の好適地として知られ、近頃獎勵しつゝある米葉には最も適當すると折紙をつけられてゐたので煙草耕作改良團なるものを設けて品種の改良、收量を増殖をはかり、一面には副業組合を設けて藁細工や椎茸栽培を奨励する等全面的に目醒しき活

動に入つた。  
また前にも記した如く山林原野は殆んど開墾の望みなく、さればとて一千餘町歩もある廣漠たる山林に何等の新味を加ふることなく、木炭の如きも人手に渡して製造させ、建築用材の如きも目分量で賣却處分するやうでは、折角豊富な林産物をないがしろにするものであることに氣付いて、爰に生産經營上に於ける更生の主力を注ぎ、木炭は山林の所有者がめい／＼に農閑期を利用して製炭し、直接薪炭商に賣却することにし、木材また同様の途を辿り、好結果を生むに至つた何しろ一千餘町歩の大森林であるのだから此の村にとつては無盡藏の寶庫といつても差支ない。  
主要農産物の増收計畫を左に掲げて見よう。(但しこの計畫は昭和九年に樹てたものである)

種別	現			計			増收額	備考
	反別	付反	常總	反別	付反	常總		
	數量	數量	金額	數量	數量	金額		
水 稻	三三、六	一、四〇〇	三三、七五	三三、六	二、三〇〇	三、七〇〇	五七七石 一割五分増	石二十五圓
陸 稻	三三、三	三三〇	六二	三三、〇	一、五〇〇	七、五〇〇	五七石	石二十圓
大 麥	三〇、八	一〇、八〇〇	六六	三三、〇	二、五〇〇	七、〇〇〇	一、八〇〇圓	水田裏作五町歩増
裸 麥	一八、一	一、四〇〇	三三	一八、一	一、五〇〇	三、三〇〇	三三石	石八圓
小 麥	六、六	一、五〇〇	一五、四	一〇、〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、七九圓	石九圓
大 豆	五、一	一、〇〇〇	五、一	五、〇	一、〇〇〇	三、二〇〇	一〇石	石十四圓
蕎 麥	三、〇	八〇〇	一、八	三、〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	八三石	石六圓
煙 草	一、五	一、五	四、七五	四、〇	四、〇〇〇	三、七五圓	四九三圓	
計			一三、〇六			三、八、七六	三、六、六五圓	

斯くして生産の増殖を圖ると共に、教化施設に大改善を加へ、従来の弊風を矯め、一方入る方の計畫と相俟つて出る方を考へ、貯金の制を設けて不時の支出に供ふることにした、その結果

葬儀を簡略にすること

兵士の送迎に關すること

家計簿記入のこと

等は相當に改良され相當に考へるやうになつたさうである貯金の組合は非常によく出來てゐて、毎月十錢掛の貯金組合が八組で百二十戸、十五錢掛が三組で二十四戸、二十錢掛が二組二十四戸、十錢に穀一斗(穀は年一回秋の收穫の時)が三組で三十五戸、收穫時穀一斗に小麥一斗が三組三十六戸、穀六升に八錢(月掛)が一組二十一戸ある。

尙ほ此の村では何處の家でも鶏を澤山飼つてゐる、六月末日現在の調査によると四百幾らの戸數で二千四百四十八羽の鶏がゐて、此の日の現在産卵數から一ヶ年間の産卵數を考へると實に十五萬三千七百二十個の多數にのぼり、價格に見積る

と三千八百四十三圓の巨額に達する、卵ともいへぬ農家にとつてはゆるかせに出來ぬ其の日／＼の收入で、上記貯金の如きも多くは此の卵から積まれていくのである。

斯くして知らず／＼に貯金は殖える、自らの製炭、製材によつて收入は増す、納税など勿論好成績に納められてゐるのみならず、祝儀不祝儀等が出來ると從來は大抵山を賣つて不時の支出を補つたものだが、近頃は貯金を利用するやうになり、不時の支出があつても左程あわてずに済むさうである。彼の世界の理想國ともいはれるスイスは、西はフランス、北はドイツ、東はオーストリア、南はイタリアに圍まれた謂はゞ摺鉢の底のやうな國である、小さな國ではあるが風物ゆたかに榮えて誠に美しい國である。

私は第一步を鹽田村に印した時、古き聖堂の如き役場の高臺に立つて山かひに點在する民家を眺めた時、フト彼のスイスの理想郷を想ひ出したのであつた。

スイスが小國ながらに世界に名をなすには天恵の然らしむる所もあつたが、勿論そこには人的工作の大きいと與つて力あ



るものがあつた。

山峡の鹽田が猫額大の耕地をのみ唯一のたよりに、何等特殊の産物とともなく今日模範村として稱へらるゝに至つたには、そこには人間の涙ぐましいばかりに美しい努力があつた、

申すまでもなく理想とか模範とかいはれるには、表に現はれた納税がよく納つてるとか、村が穩かだとか凡てがよく整つてゐるとかいふばかりでなく、よく整へ、よく治つてゆくに至つた裏面の工作、努力を買はねばならない。

鹽田村における其の工作其の努力は即ち我が統計調査員であるのである、調査員が長い間人知れぬ苦勞を嘗めつゝ樂きあげたのが今日の鹽田である。

先づ第一に統計のために氣を吐きたいのは現村長金子専藏氏が長らく統計調査員として、本村統計事務の基礎をなすに



前右列の氏名を左に紹介する。右列の氏名を左に紹介する。右列の氏名を左に紹介する。

第一區 (學務委員) 安藤 朝雄氏(五二) 第二區 (區長) 大貫千代吉氏(六六) 第三區 (村會議員、農事改良員) 喜重氏(五二)

第四區 (農事改良員) 小林 文 彌氏(二八) 第五區 (區長) 横山 邦 保氏(四五) 第六區 菊池 安 夫氏(二七) 第七區

第八區 (農事改良員) 柏 伊之介氏(六二) 第九區 (青年支會長) 金子 敏 造氏(四〇) 第十區 (區長、學務委員) 益 子 興 作氏(五六) 古きは統計令の最初から携つてゐるのが三人、其の他にも相當の勤續者で、古いから慣れてゐる、地番等迄暗記してゐるその上勤勉努力家揃へであるから鬼に金棒だ。

とはいふものゝ、お多分にもれず此の模範村も以前は早くいへば、いゝ加減な卓上統計で間に合はせてゐたので小票調査に改正の當時など、岡崎主任が日を定めて訓練をしたり、耕地圖を八十圓もかけて小字毎に作つたり、主任者の苦勞も容易でなかつたが、調査員の苦勞もまた一通りでない。耕地が少いだけに筆數が多く、田が三千八百二十八筆、畑が二千九百一十一筆、それに一千餘町歩の山林原野があるのだから一調査員で多いのは九百六十五筆(田二十町三反七畝十五歩、畑二十二町七反二十七歩)からも受持つてゐる、其の上自轉車も利かない山の山の山奥などに時々少しばかり、開墾地が出来るので、僅か三畝か五畝の處でも半日もかゝつて調査しなければならぬ。

さうした山奥の開墾地でものぞくと他は概して纏つてゐる田畑だから、耕地の調査はまた忍べるとしても、一番困難を感じるのは林産物の調査である。

何しろ村を繞らすに廣漠たる大深林を以てしてゐるのだから、

ら、何の某が都合あつて立木の一部を賣つたとしても、山奥の一角を伐採した位では何時どうしたんだか、どれだけ賣つたのかサツパリわからない、それも道路筋でもあるなら鬼も角一里もあるやうな山奥で、こつそりやられるのだから用材が何石あつたか、雜木はいくらあつたか、調査員の苦勞などおかまへなしに、賣買がきまると木元に關係なくドン／＼伐採して搬んでしまふのだからアトでさうと知つた擔當の調査員こそ困難だ、茨を踏み分け、踏み分け、行つて見たとて現場には何も無いのだ、セメて切株でもみて認定するより外ない。斷つておくがこのひろ／＼とした深林は大部分民有地であるのだ。

斯る難澁な場所でありながら、調査員は期日をたがへず綿密な調査を遂げ、季節々の集りなども心待ちに待つてゐる會の日には時間勵行で必ず全員出席し、互ひに研究し、又氣づかざるところは互ひに知らせ合つたりして有益に過ぎ、そして調査員が一年の辛勞の結果は年度末に一覽表に作つて各調査員に配ることにしてゐる、調査員はまた之れを唯一の目標に營々として事務のために勵んでゐる。

村長金子氏は前にも記した如く統計搖籃の時代に第九區調査員として、身自ら統計調査に苦き經驗を積み、わかりすぎる程わかつた人で、素朴純真、理想郷には打つてつけの村長さんだ、助役横山昌訓氏、收入役坪慶氏、書記柴田正造、宇

留野淺五郎、海老根進の諸氏何れも多年村政にたつさはり村長を補佐して協睦其の實を擧げてゐる。

統計主任書記岡崎輝吉氏は大正三年以來統計事務に關係し精勵其の完璧を期して倦まずたゆまず、同十二年次田知事時代に早くも統計功勞者として縣から表彰された、君は人間が

ガツテリしてゐて頭もよく、常に青年團服に似たる洋服を着て村の第一線に立ち、あらゆる方面に活動してゐる。

左に役場備付の統計に關する簿冊を擧げて參考に供する。  
調査區集計表綴、統計調査原簿(各區毎)、春季作付反別調査(横罫式)、統計調査員打合せ記録、調査員報告書綴

### ◆寄贈圖書

- |              |           |               |           |
|--------------|-----------|---------------|-----------|
| 統計(七月號)      | 高知縣統計協會   | 小賣物價月報        | 農工大臣官房統計課 |
| 昭和十一年版長野縣勢要覽 | 長野縣       | 製絲職工及養蠶備償銀統計表 | 農林大臣官房統計課 |
| 家計の概要        | 内閣統計局     | 新資料月報         | 樺太廳官房調査課  |
| 工業調査書        | 神奈川縣      | 富山縣統計書        | 富山縣       |
| 調査月報         | 朝鮮總督府     | 商業調査書         | 神奈川縣      |
| 列國政策彙報       | 内閣調査局     | 資源(八月)        | 資源局       |
| 昭和十年麥統計      | 香川縣       | 統計時報          | 内閣統計局     |
| 昭和十年香川縣勢要覽   | 香川縣       | 下館町報          | 下館町役場     |
| 香川縣統計書       | 香川縣       | 産業別人口の比較      | 内閣統計局     |
| 大和の展望        | 奈良縣       | 青森縣勢要覽        | 青森縣       |
| 長野縣統計時報      | 長野縣統計協會   | 山口縣統計書        | 山口縣       |
| 奈良縣統計書       | 奈良縣       | 統計時報(第八號)     | 徳島縣統計協會   |
| 愛知縣靜慮戸口統計    | 愛知縣統計調査課  | トウケイ(第二號)     | 鳥取縣統計協會   |
| 昭和十一年長野縣勢要覽  | 長野縣       | 浪花の鏡(八月號)     | 大阪府統計協會   |
| 昭和十年沖繩縣勢要覽   | 沖繩縣       | 統計(八月號)       | 千葉縣統計協會   |
| 郡市別牛馬及豚統計表   | 農林大臣官房統計課 | 二豊の統計(八月號)    | 大分縣統計協會   |



## 調査員が年手當を 年々公共に寄附

# 生々發展する栗原村

### 縣南の統計模範村

昨は世界の大公園たるスイスに似たる縣北山峽の理想郷鹽田を訪ね、今日は縣南に飛びて筑麓の樂園新治郡栗原村を訪問した。

土浦驛前から大會根廻り北條行のバスに乗つて二十分ばかりで雨上りの雑木林の處でおろされた。

『茲も栗原地内ですから、此の山の中を行きますと役場はスグです、幾らありません……山道ですが何んでもありませんから……』

運轉手が大變親切さうに、そして山道ですが何んでもありませんなんて、何んでもなささうでないやうな思はせぶりを匂はしたりして折角教へてくれたが、謂ふが如く山の中は何んでもないが、山を出てからが仕事で、豪雨のあとの野良道

は、どろ／＼にふやけて靴はのめる、すべる、あぶなつかしい道を相當歩いたと思つて前方を見ると、ひろ／＼とした田圃だ、幾らもないどころか、どつちを向いても民家らしいものなど見當らない、部落でともあるかと思ふ遙か彼方の森はぼんやりと細かい雨にほけてゐる、道端に棒杭が立つてゐるので近寄つてみると、指導標と思ひきや藥の廣告であつた。田圃の突き當りは小學校だ、そこからやつと道らしい道になる。運轉手にだまされたやうな焦けつ腹で、遮二無二役場へ急ぐと道ばたでおかみさん達が話してゐる。

『○○屋の何とかさんは、ゆんべ見受けになつて迎への自動車で旦那らしいのと二人でどこかへ行つたよ、年は若いの……しあはせだこと』

宿場の酌婦であらう其の幸福(?)な女を羨むかに聞える朗らかな會話に、心氣一轉、急に明るいものを見たやうな氣持で役場へ着いた。

それにまた、鹽田とは違ひガツチリした石の門で、はいり口からして近代的であり、瓦葺き總二階の堂々たる廳舎で、天きな玄關の次の間には勿体ないやうなスベークした卓子を圍んで眞新らしい椅子が並べてある。

その椅子にかけると眞正面に筑波の秀嶺が、手に取るやうに見えるのださうだが、相憎な天氣で山は全く雲に隠れてそれらしい感じも出なかつたが、小田の山系雲の間に間に襦を引いて、其の昔北畠親房卿が義良親王を奉じて來り留まつたといふ小田城の俳を偲ぶに足るものがある。

私は茲で助役國府田喜三郎氏、統計主任書記大沼又吉氏及び統計調査員村野禎一郎氏等と村の統計を語つてゐると學校から酒井榮訓導がわざ／＼見えられ、郷土史についていろいろ話してくれた。

此の村の統計調査員は昭和八年千葉縣津ノ宮の統計事務を視察し、簿冊の整頓してゐること、調査員が事務に當つて厭身的であり、研究的であること等つぶさに検討して自分達が爲し來つた仕事をかへりみて、こんなことではとても駄目だ爲せばなるものを爲さぬから何時迄も成績はあがらないの自分達の村は今どうなつてゐる、伸びてるのか縮んでるのか

そこに生き／＼とした獨創の匂ひが濃厚にたゞよつてゐるのが嬉しく感じられる。

米と藪とは本村の主要生産物で、双方共年産八萬圓からになつてゐる。

例へば米の生産調査に就て見るに、從來原則として米生産統計は調査區見取圖記號の方法により取扱をなしてゐたが、耕地圖等において取扱ひに間々不便を感ずることもあるので、どうしたら此の不便を補うことが出来るかを、調査員會議のたびに大沼主任から提案して研究に研究を重ねた結果、圖面を以て表すべきものを帳簿の上に表して圖面で見ると同様、作付段別が適確にわかり、耕作者も明瞭となり、調査が簡易で重複脱漏等なく、誰が見ても一目瞭然たらしむることを得れば結構であるといふので、縣規定の方法以外に『米生産統計耕作者名寄帳』なるものを考案し、各調査區毎に備付けることにした。様式は左の通りである。

所有者氏名						異動事項 年月日	大字 地番 字	段別	地目	耕作人氏名	摘要
田		自作		小作又ハ							
地番	字	地番	字	地番	字						

また作付段別調査に當りては「大字」「字」「地番」「地目」「耕作段別」「梗糯別」「作柄等位」「所有者氏名」「耕作者氏名」「摘

村の大勢さへわからんやうでは村の發展は到底覺束ないのみか、發展の基準となるべき統計に携はつてゐながらお先き眞ッ暗だなんて面目ない次第だといふので、調査員が擧つて發奮し、津ノ宮あたりを負けてはなるものかといふ氣になつて津ノ宮を目標に大活動を起したところ、僅かに三年になるかならぬのに、見違へる程整頓し模範村として却つて範を垂れるに至つたのである。

一体此の村は櫻川の流域にあつて昔から開けてゐた。栗原の地名からして日本に三つしか無かつたとかいはれ、相當な由緒を持つてゐたばかりでなく、今に残る土器、古墳其他石器時代の遺物などから考へても古い頃文化の中心をなしてゐたことが明かである、徳川時代には外國奉行などもおかれ、遠く海外に迄文化を求めて飛躍したともいはれ、樺太から持つて來たとかいつて、土人が三本脚の鍋をかけて酒を飲んでゐる處を描いた掛物が、村の某家に秘藏されてゐるといふ話もある。

かういふ風に他の優れたるを採り入れて文化を助け、たゞに足らざるを補ふばかりでなく、更に一步を進めて一層優秀なものを作成する。といふ氣風が傳統的に今に傳はつてゐるのではあるまいか。

統計の上にも貴い研究から生れた創造の跡が澤山に現はれてゐて、一つの帳簿を繕いても、一つの書類をめぐつても、要」の各欄を設けた横式の用紙を綴つた『米生産統計調査原簿』なるものを携帯し、此の原簿には耕地圖より引寫し、携帯に便なる半紙大の字切圖を添付しおき、疑問が生じた場合には速かに其の切圖と照合し得られる最も便利な様式に出來てゐる。

而して是等名寄帳の加除は六月三十日迄、作付反別調査原簿の加除は毎月一回行ひ七月三十日迄には一時全部役場へ提出し、役場に備付の臺帳と照合することになつてゐる。

一たび此の名寄帳を繕き、併て作付原簿を繰りひろげると何處の何某は何處そこにどれだけの田を作つてゐるとか、其の小作は如何程か、作柄はどうか、一目見ただけではつきりする誠に名寄帳たるに背かざるものがある。

次に養蠶の調査も縣の定めの方法以外に左の如き様式により各巡回調査を行ひたる後、各調査區の養蠶實行組合に就いて組合員の掃立互量、收購高、桑葉の過不足等を調査し萬誤りなきやう努めてゐる。

養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶
蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶
蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶

初	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏
上	上	上	上	上	上	上	上	上
中	中	中	中	中	中	中	中	中
下	下	下	下	下	下	下	下	下

家畜調査についても同様獨創の妙味を見せ、定めの方法以外に調査原簿を作り、牛馬に對しては「牛馬臺帳」を置き「調査年月日」「性別」「明四歳以上」「明二歳」當歳「異動年月日」に區別して加除が出来るやうになつてゐるが、是亦牛馬歴が一目瞭然たるものがあるので、先頃執行された農林省の馬匹検査には非常な好評を博し、特にお褒めの言葉があつたさうである。

また豚においては「十ヶ月以上」「十ヶ月未満」「生産」「斃死」の各欄の下へ飼養者氏名を書き込むにしてある。其他「桑園臺帳」「重要物産價格調査簿」「家畜調査」等何れも新味を見せ、帳簿々々は潑刺と躍つてゐるやうな感じがする。調査員諸君の努力の結果でなければならぬ。

本村は栗原、上野、蓮沼の三大字より成り、東西一里二十二町、南北一里八町、戸數三百八十五戸、現在人口男千二十九人、女九百九十五人、計二千二十四人で大部分農である。

それで耕地は田が二千四百九十八筆で百四十三町六反八畝歩、畑が三千六百三十六筆で二百四十五町七反八畝十歩、外に二百十町餘の山林と三十町歩余の原野とがある。

かり自腹を切り、百二十圓で小學校へ井戸を寄附することになつてゐるさうだ。

道義漸く頽れて不正不徳を敢てしてまで私腹を肥さんとするもの多く、吏道刷新など叫ばるゝ今日、我が栗原村調査員の如き特志者ありて、誠心誠意國家的事業に精勵し、當然受くべき僅かながらも貴き報酬をすら身に着けず、公共のために寄附するなど眞に奇特の至りと稱すべきだ。

しかも此の事として大沼主任が吹聴したのもなく、村野調査員が話してくれたのもなく、同席せる酒井訓導が雑談の序でに

『統計調査では、寄附が貰へるので學校は大喜びですよ』と口走つたので、其の理由を聞きたくして初めて右の如き事實を確め得たわけである。

尙ほ附け加へておきたいのは、此の村の調査員達は皆に統計調査にのみ出精するといふばかりでなく、はたで經濟更生委員がやるやうな副業の奨励とか、冠婚葬祭の改善とか、貯金の斡旋とか、家計簿の奨励とかにも、先に立つてよく奔走され、又自ら籠を垂れて常にあらゆる方面において指導の地位に立たれてゐる。

栗原は家禽の飼養が盛んで、三百八十五戸の内鶏を飼つておく家が二百五十六戸もあつて、それが五羽や六羽位おまじなひのやうに飼つてゐるのでなくて、何處の家にも二十羽位

畑作は小麦の八十町一反歩を筆頭に、陸稻の三十九町二反大麥の三十五町八反、大豆の二十三町五反歩、甘藷の十五町五反歩など主要なるもので、別に九十二町八反歩の桑園がある、如何に養蠶が盛んであるかと窺ひ知れるであらうが、斯くも多數なる筆數がありながら調査員は僅かに七區七名である。

- (1) 村野 禎一 郎氏 (三六)
- (2) 大 沼 又 吉氏 (四二)
- (3) 國 府 田 市三郎氏 (六四)
- (4) 酒 井 清 太 郎氏 (三三)
- (5) 國 府 田 幾 平氏 (六二)
- (6) 飯 岡 良 一氏 (三六)
- (7) 古 平 喜 市氏 (四〇)

の七名で擔當區域は筆數にして八百から千二百迄、大きいものは七十四町八反、少きも四十二町六反から受持ち平均六十五町五反歩に當つてゐる。

會議は殆んど毎月一回つゝで昨年は十回開催し、本年も七月迄に既に五回集つて有益な研究を遂げてゐる。それで調査員の手當はといふと米生産を併せて年十圓、その十圓すら調査員は一文も手にせず、一昨年は七調査員が手當を其儘提供し七十圓で農具一式を小學校に寄附した、又昨年は七十圓で本箱を整へ役場の備品に寄贈し、本年は其の手當に五十圓は

る、最近の調べによると成禽が三千三百四十八羽、雛が千三百七十七羽、一ヶ年の産卵數五十萬八千三百二十個此の價額八千二百三十五圓の多きに上つてゐる、副業といふよりも此の村では米麥及び養蠶に亞ぐの立派な生産物であるのだ。

此の鶏を最も合理的に飼つてゐるのは村野調査員擔當の第一調査區大字栗原字乾島で、茲では村野氏の斡旋で、字内の婦人達を網羅して養鶏組合を設け、少きも二十羽位から多きは百七十八羽も飼うものあり、七月一日現在の成鶏のみで九百三十一羽ある。

此組合では男の人達は外へ出て働く、その留守をあつかるおかみさん達や娘さん等が、お勝手元やそゞろ洗濯、お裁縫などの合ひ間に鶏を飼つて、餌料の事から鶏舎の掃除、鶏糞の始末、雛の飼育、鶏卵の處分等に至るまで一切男の手を借りずに、婦人のほんたうの副業として處理してゐる、成績は頗る良好で一羽一ヶ年の産卵二百個位の平均となり、組合全体で年に千五百圓の收益が見られるさうである。

此の外各調査區でも統計調査以外に種々なる計畫に参劃し調査員は常によき指導者となり、よき伴侶となつて産業を助けてゐるが、此の村には思ひがけない工産物がある、それは絹織物と下駄で、織物は大小二十五名ばかりの職工を使つて盛んに東京方面へ賣出してゐるが年産二萬圓に達する、下駄も東京へ移出されるが年産八千五百圓からになる。

役場は村長さんが缺員で、助役國府田喜三郎氏が村長代理をしてゐたが、見るから淳朴な方で自ら窓際のお粗末な卓子に倚り、他の吏員と同様直接村の人達に應待して、窓口のサービスに餘念がない、収入役中泉嘉一郎氏も極めて穩やかな人統計主任書記大沼又吉氏は實踏篤行の人で、自ら進んで第二區の調査員となり、頗る多忙な身でありながら或ひは見聞し或ひは研究し、或ひは創造考案したものを先づ實地に自分が体験してみても他の調査員にも及ぼすといふのであるから、卓上一片の理論と違つて例へ無理があつても、それは無理にはならない、自分がやつて見て好結果が得られたのだから出来ないことはないといはれ、ば調査員は必ず動く、況んや今日の栗原村統計調査員は能く此の主任の氣心のみ込んで、進んで主任と一緒に、主任と共に統計の完璧を期すべく懸命に努力してゐるのだから益々成績はあがるばかりである、此の外に書記大沼曉之介氏がある。

斯くの如くにして統計の成績はだん／＼よくなる、調査員諸君は村の首脳部と相携へて、よりよき村を築きあげようとしてあらゆる方面に活動されてゐるから、教化は村全体に及んで村民舉つて更生の意氣に燃え、其の日／＼の出入を家計簿に記して經濟を明かにし、好況時代に借金して買つた土地を整理したり、冠婚葬祭の冗費を矯めて是等不時の支出のため、後々までも崇りが残るといふやうな弊を改め、葬儀の

如きは共用の柩をお寺に供へておき不幸の際には中の棺箱だけを作れば済むことにし、悔みの家へ行つて二日も三日も飲み食ひをしてゐるとかいふやうなことは殆んど跡を絶ち、村民の懐ろ工合は大變よくなつた。

努力更生の目標にもといふので先頃村民の借金調査をやつた、其の方法が面白い。

普通にお前の處には幾ら借金があるかといつたところで人には各々見榮もあり、羞恥もあるから容易に正直な答へは出来ないにきまつてる、衆智を集めて考へた結果、各字毎に箱を供付け借金が百圓迄のものは小豆を一粒入れる、千圓迄のものは大豆を入れる、五千圓からあるものはソラ豆を入れることにしたが、それでも不首尾に終つたさうだ、借金の調査は何處も同じな／＼六ヶしいが、正直のところ此の栗原村には今日大した負債はないもやうである。今日の努力が三年と續き五年と續くうちには必ず負債が清算されて、眞に明るい村がガツチリと建設されるのではあるまいか。

最後に私は此の村の史實傳説こまぎせて少しく述べてみたい。

前にも記した如く此の栗原は櫻川の流域といふのが一つの條件で往昔文化の中心をなして隣保相潤ひ、豪族などが棲んで人口稠密の地であつたらしく、七寶山醫王院北斗寺だの、天狗塚、鏡井戸、御陣屋跡、三ツ桔梗等々、今日尙ほいろ



前左列から 酒井訓導・國府田助大沼文吉  
主任後任書記大沼曉之介・村野野査員

てゐるが、まゐる時の呪文がおかしい『乾いた硝煙を上げるからなほして下さい』と拜むのださうで、これは此の塚に眠る十九名の天狗黨が舊九月九日櫻川を越える時、増水して船轉覆、やむなく徒渉したところ大事の大事の火薬を濡してしまつた、それが爲めに天狗黨の一味は戦ひ敗れて遂に屍をさらすにいたつたので、其の靈を慰むるの意味で『乾いた硝煙をあげる』と唱へるものらしい。

筑波嶺詩人横瀬夜雨が書いた碑がある、夜雨は誰に頼れてこれを書いた

／＼なものが残つてゐる、就中北斗寺がいちばん有名で夜光の玉、天狗の爪、龍の子など不思議な珍寶や、後奈良天皇の御宸筆、大楠公の像などもある、年中行事として舊正月七日と舊七月七日に星よけの供養を營み厄年の人信仰厚く、又お詣りするとお金がたまるとかいつて金慾しき人々の參詣常によく、お寺では如才なく望みの人には種錢を貸し與へ一年の後、一年半の後必ず其の人は大いに金が溜つて御禮まゐりながら種錢を二倍にし三倍にして返しに来るさうだから、結局利益はお互ひのものでありお寺に返るものであるのだ

天狗塚といふのは例の天狗騒動の際、此の地に戦死した天狗黨十九の屍を埋めた塚で、四時香煙の絶えたることなく、茲におまゐりすると子供の夜泣きは奇妙になほるといはれ

か、何時誰が建てたか土地の人は知らない。

歸りにはコースをかへて櫻川の橋を渡り、大島へ出て自動車待つた。道もいゝし近いも近い。其の頃陽は漸く輝り出したが、筑波の山はまた濃い雲に包まれてゐた。

## 景勝千波湖から

## 年十五萬圓の鯉

観梅に来て見つけた宇都宮の養魚家

## 鱗々相摩す投餌の壯觀

梅で名高い借樂園公園と共に世に知られた千波湖も、昔は葭や眞菰が生茂り、自然の風致を備へた大きな湖であつたが、今は其の大部分が埋立られて形良く整理され郊外散歩に唯一の場所として夏の夕べなど殊に賑はつてゐるが、其の湖の中で一ケ年に鯉が十五萬圓がどこも獲れるといふことはまだ一般にはよく知られてゐないだらう。

遊ばせておくのは勿体ないと、斯の千波湖へ目をつけたのが昨年であつた、多年の経験と熟練とは第

千波湖  
異風景

宛ら煙草のやうな鯉魚の跳躍

一年度より大成功であつた、左に其の概要を記して見よう。

稚鯉は最初の内(約一年)は宇都宮で養成し、千波湖へ放つのは一年後の三月から四月頃で、其の頃は大きいので十匁・小さいので一匁五分位のものであるから初めの内は比較的手間も掛らないが二三ヶ月を経て來ると、唯一の食物である「サナギ」及揚麥を投げてやるのが一仕事だ、殊に七月から八月頃になると水溫が昇るに従ひ、餌の食べ方が激しくなるから、生のサナギを一日に三千貫もやると云ふから物凄い。

其のサナギの蒐集だが、これが又容易でないらしい、古河、小山、土浦、石岡等の各製絲工場と特約して、毎日自動車で運搬して居るけれども場合にすると豫定の數量に達せず、鯉にひもじ

い思をさせる事もあると云ふから、餌料の補給には人知れず苦心して居る様だ、それから投餌の時の壯觀!それは養魚場で見のがせない景物だ、船ばたを叩いて集まれの號令をかけると何萬何十萬といふ鯉が我れ勝にと集まつて來て、押し合ひ、ヘン合ひ、餌の奪ひ合ひだ、水か鯉か、鯉か水か、水の中に鯉がゐるのでなくて鯉の中に水分があるといひたい程の壯觀!鱗々相摩して躍りあがる景觀!氣おふ凄じい騒音!とても言葉では盡せない、見よ爰に掲げた寫眞を、水面に氣おふ鯉魚の群れだ、葉煙草の畑でも見るやうぢやないか。

毎日午前五時から午後一時迄は間斷なく餌を投げてやる、壯觀は續けられるのだが、それでも全部に行き渡らないさうであるから此の仕事は並大抵の業では無い、それでも四、五人の壯年が

毎日汗だくに成つて元氣良くやつてゐるから鯉達は安心なもので、すくすくよくのびて行ける。然らば此の千波湖は養魚場としては最も適當してゐるかといふと、此處に二つの短所がある、それは水深が浅いのと、もう一つは二月から三月の候、鯉が一番高値のする春先に水を乾すことが出來ぬから折角の鯉が思ふやうに獲れないからである何んで二、三月頃乾上げが出來ないかといふと丁度其の頃が観梅に相當するので公園の風致上之ればかりは許されないのである。

次に困るのは鯉を釣られる事で、毎夜交代で巡回し、見張つては居るが、何せ大きな湖水だから防ぎ切れないと云うて悲鳴を上げて居る、こんなのは其の筋からでも嚴重に取締つて貰ふと良いけれど、實に困つた事だとこぼして居る、それもその筈盗釣りされるものと、死滅するのとを合せて一年五萬尾以上に達すると言はれて居る。

昭和十一年度の豫想魚獲高を聞いてみると次の如くである。

放湖鯉數 六五〇、〇〇〇尾  
 内死滅盜釣等 放湖期間(十ヶ月)五萬尾

魚獲高 六〇〇、〇〇〇尾  
 平均一尾 〇・二五〇匁として一五

額一貫當一圓としても十五萬圓に達するわけである。  
 之は要するにサナギや搗麥の數量も又相當なもので放湖期間十ヶ月として六十一萬二千貫一日平均二千貫一日一尾の食量三匁三分に當つてゐる、今其の食費を概算すればサナギ一貫匁二十錢(生と乾燥したるものを平均して)と

### 洪水の思出

—[年 週 一]—

薄き生命に長き世の憂ひを捨て、胸しくも風流趣味に遊ばんと清き希望を樂しみつ和歌に俳句に川柳に俚語作りや書道等拙き頭をひねくりて文藝方面西東百姓文士と笑はるゝ吾は天職農にして田畑耕す三町餘蠶養ふ五十貫思ひ起せば去年の秋米統計の調査中

大洪水に見舞はれて長の丹精も水の泡悲慘極まる其の跡は涙の雨のおやみなく無明の闇に風すさび月の眞如も影うすし二つ三つ四つから〜と尾上の鯉の聲寒く幾夜寝がてに春待ちしあどなかりしよ年の芥梅が香袖にだきしめて吹雪しめらし吳竹の不撓の姿雄々しくも松の夢路を辿りけり

雲の羽衣縋びて銀山千里くづを、れ感慨深き入梅や感懐深きも終しけん草の庵にさりともと蟬の鳴く聲かしましく今はしげれる夏の草われに随ふ風情あり空ながむれば雲高く田には黄金の波寄するはや秋風の立ちぬれば米生産に努力せん

宵 雪 迂 人

見積れば十二萬二千四百圓にして搗麥一日一石平均にて此の金三千六百七十二圓といふ巨額に達するから其の他の經費を加ふる時は莫大なものではあるがあの小ぼけな湖から年産十五萬圓の魚がとれようとはサテ、豪氣なものだ。(齋藤生)



## 實務統計調査の葉 (11)

### 踊り太鼓もほがらかに 久方振ぶりに見る農村の笑顔

よく照ると思へば一部水田は旱害を蒙り加ふるに陸稲は殆んど全滅の状態となつたり、よく降ると思へば陸稲は多少の増収を見るけれども水稲は大冷害を受けるなど農家をして長嘆息を禁じ得ざらしめたのが近年の状況であつたが、今年は、照りも降りも充分で、全く以て申し分なしの天候、田もよし陸もよし、更に農家の副業として最も尤なるもの、繭の相場もよく、久しぶりで見る農村の笑顔、豊年踊りの太鼓

の音も今年は一層力強く感ぜられる。此の豊年の秋の調査に就ては、前號に於ても述べて置いたが、米生産統計調査の内、基準票、調査票の作成、結果表等に就ての注意を記載して見よう

**基準票の作成** 基準票は糞に調査した作付反別(水稲、陸稲を粳米糯米別に上、中、下の三段に調査したるもの)を農家毎に米生産統計調査補助表に依つて各農家毎に取纏め、之が合計反別を移記し各々一段歩收穫高を乗

" " " " " " " " " "

じて作成するのである。

#### 一段歩收穫高の決定

收穫高を調査するに當りては先づ以て坪刈を行ひ、此の作柄ではどの位の收穫があるかと云ふことを實驗する必要がある。此の場合には水稲、陸稻共粳米糯米毎に上中下の三段階級に坪刈標準地を選びて坪刈を行ひ、之を乾燥の上稲扱機にかけて容量を調査し、更に脱穀機にかけて玄米の容量及糶摺歩合を調査し、坪刈成績表に記入するのである。

併し此の坪刈の成績は慎重に決定しても單なる坪刈の成績で必ずしも一段歩收穫高を此の成績に依り決定するとは出来ない、勿論決定の資料であるから此れを此の儘三百倍して一段歩收穫高を得らるゝ如き適當なる地を選定することは望ましいことではあるが、果してそんな土地を選定出来たかどうか疑問であるから此の坪刈を基礎として精農者、其の他の意見を徴して決定

するのである。

**基準票の送付並受領**

以上の様にして作成した基準票で自調査区内に住居を有するもの、分及入作に付ては自ら保管し他調査区より来りて耕作するものに付ては其の居住地の調査員に基準票を送付すると共に、之と反対に自調査区に居住する者が他調査区を耕作する場合には此の基準票を他の調査員より受領するのである。

**調査票の作成**

右の手續が終つたならば今度は此の基準票を各耕作者別に分類し之を集計して調査票の作付反別を記入し其の反別より得たる收穫を玄米を以て農家より聴取するか又は記入せしむるかの方法に依り記入せしめ之を完了したるときは更に基準票算出收穫高と之とを對照審査して收穫高審査の欄を記入するのである、此の審査數量が即ち實收穫高となるのであるから特に慎重を期する必要がある。

**集計**

調査票の作付反別及審査收穫高を集計して調査區結果表を作成するのであるが、此の場合には誤算なき様充分注意を願ひたい。

**米作農家戸數調査に就て**

(市町村報告期九月二十三日限)

本表の調査方法及注意事項等に就ては七月號茨城統計へ掲載しておきました。右戸數調査の外に米作農家の内自小作別等の調査は米穀對策上極めて重要な資料であります。故農林省より本年に限り特に別表の通り「米作農家戸數調査」と同時に調査の上其の結果を別表として米作農家戸數調査に添付報告せられ度旨通牒が有り縣に於ても本年七月二十二日附統收第五〇號を以て各市町村長宛に移牒して有ります。各戸町村共に其の注意事項を参照せられ調査上誤りなき様に願ひます。

(本別表は必ず米作農家戸數調査へ添付報告の事)

備考	米作		自作		米作		計
	自作	小作	自作	小作	自作	小作	
1	表中小作トハ自作地ノミニ於テ米作ヲ爲スモノヲ謂ヒ小作トハ小作地ノミニ於テ米作ヲ爲スモノヲ謂ヒ自作トハ以上ノ兩者ヲ兼ヌルモノヲ謂フ(例ヘバ自調査區又ハ自町村ニ於テ自作ヲ爲シ更ニ他町村又ハ他調査區ニ於テ小作ヲ爲スモノモ自作兼小作トシテ調査スベキハ勿論ニ付自町村又ハ自調査區ニ捉ハレザル様注意ノコト)						
2	米作ヲ主トスルモノトハ主トシテ米作ニ依リ生計ヲ營ムモノヲ謂ヒ米作ヲ從トスルモノトハ米作ヲ主トスルモノ以外ノモノヲ謂フ						

- 3 本別表ニハ米作農家ハ含まズ從ツテ本別表ノ合計數ハ米作農家戸數調査ノ「米作農家數」ト必ズ一致スベキモノトス
- 4 本別表各項ノ調査ニ當リテハ前以テ調査員ヲ召集打合せノ上必ズ米作農家毎戸ニ就キ實地調査ヲ遂ゲ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

**米第二回豫想收穫高**

(市町村報告期十一月三日限)

本表は十月末日現在で調査の上十一月三日迄に本廳へ報告書到達する様達することになつてゐますから、特に報告期限に留意し、若し該期限迄に報告書類到達せざる見込の町村は先づ電信又は電話を以て速報することです。

豫想收穫高の調査方法は五月號に掲載してあります、米第一回豫想收穫高と大体同様でありますから同誌の實務道場参照遺憾なく調査を願ひます。

備考欄へは米第一回豫想收穫高に比し増減の事由を數字を以て説明する外

**園藝農産物蔬菜及花卉ノ一**

(市町村報告期十一月十五日限)

本表は七月から八月にかけて夏季調査として調査したインゲンマメ、キウリ、シロウリ、カボチャ、スイカ、マクワウリ、ナス、トマト、ハナユリ等に氣候の適否、用水の過不足、施肥の多少、發育の經過及病蟲害、風水害等の有無等を必ず記載することを忘れず願ひます。

本表は七月から八月にかけて夏季調査として調査したインゲンマメ、キウリ、シロウリ、カボチャ、スイカ、マクワウリ、ナス、トマト、ハナユリ等の作付反別を集計表に纏めて提出したものに依つて調製するものであります

インゲンマメは未成熟のものを莢の儘食用に供するものが相當多いので、これは成熟した時の數量に換算して石を以て算出計上し、ハナユリは専ら觀賞用に供せられるものですから、花を目的として賣却することの出来る様な成育を遂げた第二作の收穫數量を調査すべきもので、作付反別の計上も亦同様の方法に依つて取扱ふのであります

**人口靜態統計表作成に就て**

(市町村報告期十一月二十日限)

毎年十月一日現在にて調査せらるゝ人口靜態統計表は、大正十一年十二月本縣訓令甲第三十七號人口統計材料表取扱手續に依つて本籍人口を戸籍簿で調べ、尙其の外出入寄留者は公簿の外實地に就いて調べ、在陸海軍部隊艦船者、在監者、内地外又は外國居住者若くは所在不明者などで十月三十一日まで判明せる者を加除して調べるのであります。

本表「出の部」は本市町村の本籍人口中本市町村外に在る者の數「入の部」は本市町村内に本籍を有せざる者について本市町村に寄留する者の數を調査の期日に於ける現在に依つて其の十月三十一日迄に知り得るものを調べるのであります。本市町村に住所寄留をなす者で更に他市町村へ住所外寄留を爲す



者は本表中何れの項へも計上せず「附表第一」へのみ計上するのであります。在陸海軍部隊艦船は現に入營中の者及陸海軍學校生徒を計上するのです。在監者は受刑者刑事被告人留置場拘留者などを計上するのであります。

在樺太は同島中帝國の領土に居住するものを掲げ露領にあるものは在外國に掲ぐるのであります。關東州は旅順金州大連の三民政署管内に在るものを掲げ他は外國に掲ぐるのであります。不詳は未だ除籍の濟まない行衛不明又は失踪の様なもの掲ぐるのであります。道府縣外よりの欄に記入した數字は更に「附表第二」へ再掲するのであります。現住人口は本籍人口に本市町村へ寄留者を加へ出の部の總計を除きたるものであります。現住戸數は一世帯をなす竈數で戸籍に依る戸主數ではないのであります。尙備考には調査の方法及前年に對比し著しき差異のあるときは必ず備考に具体的説明をせらるゝ

様せられたい、本籍人口異動明細表は出生、死亡、婚姻、離婚の各表は動態調査票の出票數を計上する向があるが右は前年の十月二日より本年の十月一日迄の異動を掲ぐるのであります。即ち右票中前年十月一日以前の事實で其の月末迄に知り得るものを除き更に本年十月一日以前の事實を其の月末迄に知り得たるものを計上するのであります。すから調査上注意せられたい。

**一反歩收穫高並單價**

夏期收穫の主なる作物の昭和十年に於ける縣平均の反當收量並單價前號の續きを左に掲ぐ

食用農産物	
反當	單價
大豆	八二三合 一三・八二錢
小豆	六三八 一六・四一
トウモロコシ	一・五九〇 七・〇四
サツマイモ	四八二貫 五
園藝農産物蔬菜花卉	

工業農産物	
反當	單價
インゲンマメ	八二二合 一七・三八錢
キウリ	四〇二貫 一〇
シロウリ	二八二 一三
カボチャ	三八二 一一
マクワウリ	四七一 九
ナス	三六七 一〇
トマト	四一〇 一〇
スイカ	四七一 九
サトイモ	三五二 一一
ハナユリ	六・一五七個 一二
ラクガセイ	四一〇升 七

反當		單價	
コンニャクイモ	二〇一貫	三七錢	
ゴマ	六三八合	一九・六五	
コウゾ	二九貫	一・二二	
ミツマタ	五三	七八	
ハクカ	六五	三四	
ミワタ	一八	八九	
コリヤナギ	四二	二八	
タイマ	一四	二〇・七	
ラミー	一一	一九・七	
牛	二七六	二二	
ヘチマ	一、二四八個	二	
ハイイ	五三貫	四二	
ジョチユウギク	五	三・〇〇	



**統計相談所**

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら「おんし」御問合せ下さい。誌上にて丁寧に御答へ致します。

**人口動態調査票作成に就て**

**岡田書記に答ふ**

**一 係員**

七月號の「茨城統計」に新治郡新治村書記岡田武四郎氏より人口動態調査票作成に就て指示せられたき旨希望がありましたので、本欄においてお答へいたします。

第一、離婚票の氏名記載方に就て、作成心得第二節第十二ノ七即ち氏名欄には離婚届書に記載しある夫妻の氏名を記入すべしとあるを以て、復籍したる方の姓を記載するは聊か矛盾する様思考せらるゝも、右は大正十二年文五六號を以て知事官房文書課長から各郡市長宛に人口動態調査票及送致目録作成心得疑義に關する件として通牒してある筈ですから、貴村にも其の當時當該郡長より通牒ありし事と存せられますが、先づ参考迄に左記の通牒を御了知ありたい

人口動態調査票及送致目録作成心得疑義ニ關スル件通牒  
標記ノ件ニ關シ各府縣ヨリ統計局ヘノ照會ニ對シ別紙寫ノ通り回答相成候旨今般其ノ筋ヨリ通牒有之候條各町村役場ヘ可然御通達相成度

**別紙中**

**六、離婚票中氏名欄記入方ニ關スル件**

氏名欄ニハ届書ニ記載シアル離婚成立後ノ氏、即チ離婚ニ依リ復籍スヘキモノハ其ノ家ノ戸主ノ氏又ハ離婚ニ依リ一家創立シタルモノハ其ノ氏ヲ記入スルコト

**第二人口動態調査票進達期限に就て**

人口動態調査票進達期限に就ては御來示の如く進達期限翌月五日迄につき其の間日曜等ある場合は該期限に提出困難なると認めらるゝを以て期限は従來通とし、翌月十日迄は期限内に到着と認むることに致しますから御了知相成たし。

**第三市町村長送致目録に就て**

市町村長送致目録中役場名の下に捺印の件右は人口動態調査令施行細則第七條第二項には單に捺印とのみに

て役場印とか市町村長の職印とか制定なきも本縣としては前條第六條に依つて市町村長が調査票を作成することになつて居るから、市町村長の職印を押捺する様通牒しある筈につき了知せられたい、尙年齢から見て未婚に疑しきものは相違なしの符箋を貼付せらるゝ様取扱はれたい。

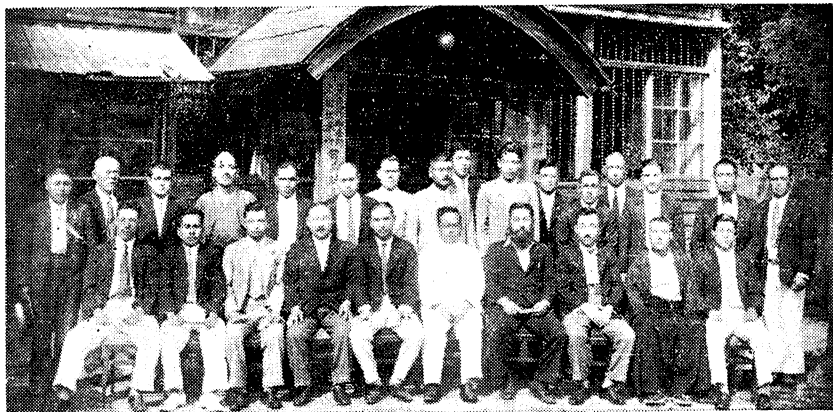
(問) 收購總量に對する上繭、玉繭、屑繭の割合は大体如何程のものなりや

(答) 實際飼育の状況にも依るものなるも大体左の如し

上繭 九二%——九五%  
玉繭 三%——五%  
屑繭 二%——三%

(問) 畦畔は作付反別には含まざることなるも田の畦畔に大豆を栽培するが如き場合は調査を要するものなりや

(答) 斯の如き場合は見積作付反別を調査掲せられたし



(問) 椎茸の原木として伐採したるものは調査を要せざるや

(答) 伐採木として調査せられたし

(問) 濕田に裏作として麥を作付せる場合其の濕田の一部を堀上げて作付する際は堀上げたる面積のみを作付反別とするや全面積を調査するや

(答) 當該耕地の作付と認め得べきものは勿論全面積を調査すべきものなるも若し溝の爲著しく反別に影響を及ぼす場合は適當に見積り調査せられたし

(問) 家禽調査の方法は六月三十日午後十二時の現在により飼養目的の如何を問はず調査すべしとあるも仲買業者の所持せる羽數は調査を要せざるものなりや

(答) 調査せられたし

(問) 桑畑報告表中合計反別を早、中晩に區別すれば左の如しとあるも其の區別方法伺ひたし

(答) 區分方に就ては調査員の認定に



### 各地統計雜信

調査員諸君  
何なりと奮  
つて御通信  
を願ひます

#### 栃木縣の視察團

栃木縣では統計事務優良町村視察團を組織し來縣した、一行は二十一名で同縣統計主事補吉田要三郎氏及同山中吟次氏に引率され七月十八日午後一時自動車を通じて久慈郡賀美村に來り、助川主任書記より同村統計事務の一般に就て詳細なる説明を聴取し、各自帳簿々冊等を具に視察したる後記念撮影を爲し午後三時過大洗に向け出發したが、同一行は二十日には千葉縣印旛郡阿蘇村を視察の上歸縣した。

〔寫眞説明〕 賀美村役場における記念撮影口前列向つて右より三人目山中栃木

依る外なし

(問) 近時煙草作獎勵のため煙草苗を植付したる畑の大麥に付極端なる早刈を進められ收穫皆無又は三分の一

位かと思はれる様な青作を刈取るもの相當あるも右の如きものゝ收穫高調査に付ては如何なる方法に依り算出するや

(答) 作柄の状況に依り決定すること

(問) 夏蠶、秋蠶、晩秋蠶の掃立時期に依る區別如何

(答) 掃立時期を明確に決定することは困難なれども大体左記の通りである

夏蠶 七月十日以後掃立てのもの  
秋蠶 七月三十日以後掃立てのもの  
晩秋蠶 八月三十日以後掃立てのもの

× × × × ×

#### 那珂郡下の研究會

縣統計主事補、次は佐川賀美村長、次は吉田栃木縣統計主事補、次は郡司久慈郡擔任本縣屬に佐川村長の後方に立てるは賀美村統計主任助川書記、共の他は視察員一行

那珂郡東部研究會 七月十日全郡芳野村役場に於て統計事務研究會を開き縣統計課より渡邊屬が臨席、午前十時宮本芳野村長の開辭に次で渡邊屬より縣提出事項に就き詳細説明の後質疑應答を爲し午後二時閉會した。

行組合聯合會より記念品を添へ表彰せられたが更に又穀物改良の廉に依り穀物検査所長より表彰された。

### 統計調査員の死亡

東茨城郡大貫町統計調査員加部東寅之介氏は七月二十六日、全郡吉田村統計調査員小松又彦氏は七月三十日に執りも死去せられたので多年統計事務に従事せられた此の兩氏に對し縣統計協會長より夫々弔詞を贈つた。

### 石岡部會と互審會

那慶と共に生れた石岡部會もいよこの爲に種々な施設をなして統計の躍進を遂げつゝあることは、この統計重要時代に於て尤も多とすべきである、その會則に示された年中行事統計調査員の總會は七月十日石岡町小學校に開催された、時恰も炎熱のシーズンを買して又猫の手も欲しいと云ふ實に忙が

七月十五日作岡村役場に於て定例研究會を開催し縣統計課より同郡擔當の岡崎主事補が臨席した、午前九時四十分開會、開會地たる木村村長の開會の辭に次ぎ山中會長(大穂村長)の挨拶あり續いて縣提出事項に就き岡崎主事補より詳細説明の後質疑應答を爲し尙各町村より提出ありたる質疑事項を解答し午後二時四十分閉會せり。出席者は左の如し

- (作岡村)木村村長、高橋書記(大穂村)山中會長、柳町書記(高道祖村)飯岡副會長(書記)(小田村)上山書記(筑波町)酒寄書記(北條町)飯竹書記(菅間村)笠原書記(田水山村)松崎書記(田井村)櫻井書記(吉沼村 杉山書記)

### 統計主任の表彰

新治郡栗原村統計主任書記大沼又吉氏は曩に知事より表彰せられた統計事務効績者であるが今回は各種産業に關して特に貢獻した廉を以て全村發鑑賞

### 筑波郡北部研究會

- 小瀬村橋本書記、大宮町阿久津書記、瓜連町龍崎囃託、靜村寺門書記、大場村三村書記、玉川村長書記、大賀村大森書記、山方村根本書記、鹽田村岡崎書記、長倉村古田土書記、檜澤村岡崎書記、隣郷村青木書記、野口村西村書記

しい時期をも顧みず會場へと集まる調査員七十七名と云ふ別項出席の狀況の通りで誰もが今日は負けじと眉宇に確信をいだいて貴重な努力の資料包を携へて居るばかりか成績余り良くない調査員も今日丈は如何にも自信ある如くであるから如何に眞剣であつたかが想像される譯である、先づ午前九時に開會部會長代理安島助役開會の辭を述べられ、次で縣より出席された虎口屬新治郡の統計事務の現況春季調査實施等に就て挨拶を兼ね一層の奮起を希望してから夏季調査要項に依つて詳細なる説明あり質疑に續いて囑望された春季調査資料互審會を開會先づ虎口屬互審上の注意を與へ各調査員の互審に移り執れも眞摯な態度で午後二時迄互審をなした後虎口屬より互審の概評ありて午後三時多大の効果を收め良成績に終了した、直に主任者會議を開き左記の通り會則一部改正其の他を決定された。

#### 一、會則改正の件

第六條を左の通改正(即日施行)

第六條本會ハ第四條ノ外ニ左ノ事業ヲ行フモノトス

- 一、勤続四年以上統計事務ニ従事シ成績優良ナル調査員ヲ銓衡シ感謝狀並ニ記念品ヲ贈呈スルモノトス
- 二、現職ノ調査員 亡セシ場合ハ弔慰料一圓ヲ贈呈シ弔意ヲ表スルモノトス
- 三、本會ノ關係職員並ニ會員事務更迭又ハ退職シタル時ハ感謝狀並ニ記念品ヲ贈呈スルモノトス但記念品ハ協議ニ依リ決定ス
- 二、成績優良ナル調査員銓衡ノ件ハ次回研究會ニ於テ協議決定シ速ニ實施スルコト
- 三、次回研究會玉川村八月中旬

#### 出席の狀況

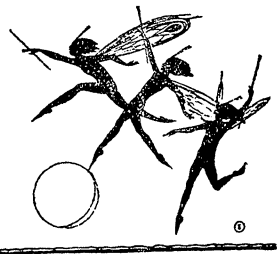
役場員	調査員	計
石岡町	一四	一六
高濱町	一〇	一一
田余村	七	八
關川村	一〇	一一

### 佐野村視察

眞壁郡古里村統計調査員十四名は戶頃主任引卒の下に八月二十一日、眞壁郡河間村統計調査員九名は國府田主任引卒の下に八月二十日、新治郡戀瀨村統計調査員十五名は富田村長引卒の下に七月二十七日執りも那珂郡佐野村を視察したがその途次縣廳を訪問統計課を見學川崎統計課長より統計に關し激勵的挨拶を受け廳内巡覽の上記念撮影をなし視察の上歸村した

### 賀美村視察

北相馬郡井野村統計調査員五名は北島助役に引卒され八月廿四日久慈郡賀美村を視察したがその途次縣廳統計課を訪れ前同様課長の挨拶を受け見學の上記念撮影を行ひ視察地に向ひ詳細視察の上歸村した(執りも口繪寫眞参照)



### 到る處大喝采の

## 統計映畫と講話

「斬新なるフィルム多数」

希望殺到で係員面喰ふ

る、左に各地における開催状況を掲げてみよう。

本縣統計協會において統計思想普及の目的を以て活動寫眞映寫機を購入、統計映畫講話班を組織し、七月二日多賀郡日高村を皮切りに縣下各地に映畫並に講話の會を催しつゝあることは前號既報の通りであるが、映畫は「米になるまで」「自力更生の村」「二巻」「お日様と蛙」「巻」「喰ふか喰はれるか」「二巻」「ザンバ」「巻」「守れ皇國」二巻で教訓的なるあり、漫畫ものあり、諷刺的なるあり、極めて嶄新なる取材により興味津々たるうちに多大の感銘を興へ、映畫のあひだくには縣から出張の川崎統計課長や郡擔任の統計課員が統計の主要性について有益な講話を試み、各地共非常な喝采を博し、開催を希望するもの頗る多く、本縣における統計模範村として著名なる久慈郡賀美村及び染和田村の如きは主任者が態々出縣懇請するなど係員はスケジュールの編成に面喰つてゐる有様である。

開催日	場所	會衆
七月二日	日高村日高小學校	五〇〇名
七月三日	黒前村高原小學校	五五〇名
七月九日	谷井田村谷井田小學校	四〇〇名
七月十日	豊村小學校	五〇〇名
七月十四日	高須村高須小學校	五〇〇名
七月十五日	北文間村北文間小學校	五五〇名
七月二十日	紫足村紫尾小學校	八〇〇名
七月二十一日	村田村村田小學校	八五〇名
七月二十三日	君賀村君賀小學校	五〇〇名
七月二十四日	鳩崎村鳩崎小學校	七〇〇名
七月二十七日	石神村石神小學校	一、〇〇〇名
七月二十八日	神崎村上宮寺	八〇〇名

七月三十日	沼前村海老澤小學校	八〇〇名	八月二十日	逆井山村逆井山小學校	一、三〇〇名
七月三十一日	大谷村大谷小學校	一、〇〇〇名	八月二十一日	八俣村八俣小學校	一、一〇〇名
八月七日	林村林小學校	八〇〇名	八月二十三日	立花村立花小學校	八〇〇名
八月八日	戀瀬村戀瀬小學校	四〇〇名	八月二十四日	秋津村秋津小學校	六〇〇名
八月十日	堅倉村堅倉小學校	四〇〇名	八月二十七日	山川村山川小學校	一、五〇〇名
八月十一日	上野合村上野合小學校	三〇〇名	八月二十八日	中結城村中結城小學校	一、〇〇〇名
八月十二日	機初村機初小學校	七〇〇名	八月三十日	山根村山根小學校	七〇〇名
八月十三日	郡戸村郡戸小學校	一、〇〇〇名	八月三十一日	諏訪村縦山分教場	八〇〇名
八月十七日	北山内村北山内小學校	七〇〇名	九月四日	染和田村染和田小學校	六五〇名
八月十八日	西山内村稻田小學校	六〇〇名	九月五日	賀美村賀美小學校	一、〇〇〇名

### 昭和十一年春蠶收繭高 (九月三日農林省發表)

養蠶戸數	蠶種掃立數量	收繭高數量	價額	前年ニ比シ	減増
一、六四、三六戸	六五、五二、二グラム	四、一五、四七貫	一九、九〇、九四〇圓	〃	五五、六三戸減
〃	〃	〃	〃	〃	四、三七〇、九二グラム減
〃	〃	〃	〃	〃	二、七三、〇五二貫減
〃	〃	〃	〃	〃	三〇、九六、七三圓増

内

白繭數量	三〇、六八、九四貫	價額	一四、三六、九三圓
黃繭數量	二一、〇三、三〇貫	價額	五、五三、九七圓

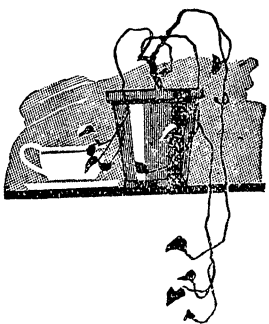
本縣に於ける收繭は別項掲載の通りであるが全國の第六位で第一位は長野次は群馬、埼玉、愛知、山梨の順序である。

熱暑にふさはしい

# 潮來の統計講習

繪にみるやうな林間の講義

講師は長畑統計官



本縣主催第十五回統計事務講習會は農林省統計官長畑健二氏を招聘して八月四日より三日間行方郡潮來町に開催された會場は稻荷山林間で老杉鬱蒼と茂り、しかも霞ヶ浦の水面より走り來る涼風をまともに受ける絶好の適地、加ふるに詩の町、畫の名所、水郷潮來を、話にこそ聞け、繪にこそ見つれ、足を踏み入れることは始めての人もあることゝて、聽講申込は非常なもので、開會當日迄の申込人員は八百三名の多きに達し、此の内役場事務の關係上又は事故の爲出席不能となりし者があつても六百四十八名の出席を見ることが出來た

斯くの如き多數の出席者を見ることは全國でも珍しき事と講師も非常に喜ばれて居たが、本縣では毎年の例で決して今年に限つたことではない。之に依つて見るも、如何に市町村當局が統計に關心を持つて居るか、統計従事者が如何に熱心であるかが覗はれる、水戸市附近の調査員であるが、朝は三

時に起きて仕度をし、十五里餘の道程を三時間あまり自轉車のペダルを踏んで來講、稍々涼しくなるのを待つて同じ道を歸り斯うして三日間を完全に征服した等は最も尤なるものでこんな熱心な人があればこそ本縣の統計は益々其の成績を向上することが出來るのである。

講師の長畑統計官は、過ぐる昭和五年那珂郡湊町にて開催した第九回の本講習會にも講師として來縣せられ、又本誌茨城統計には本年の一月より農作物統計論を執筆され既に御馴染の關係にあるので、今回の講習でも則かな親しい氣持で聽講することが出來た。

講義の要項は左の通りであるが、第一日には本講習會の會長たる山本總務部長も臨席され訓示を兼ね一場の挨拶をなされた、此の第一日は前夜の雨の爲林間の濕潤甚しく、聽講者の迷惑を慮り遽に小學校に變更したが同日は暑熱も減じたるこ

とて屋内としては比較的樂に聽講が出來たのは幸である。

第二日、第三日は好天に恵まれ豫定の通り林間で開くことが出來た、ラウド・スピーカーに依つて同山林内全部が講習會場の様で、何處に居つても講義が聽かれ、さしもの暑さにも思ひ／＼に涼風を追つて、汗も流さず、扇も使はず、聽講することが出來たのは全く林間講習の妙味であらう。

## 講義要項

### 農林統計

#### 緒論

- 一 農林業の重要性
  - (一) 農業は食糧を生産す
  - (二) 農業は工業に原料を供給す
  - (三) 農業は多數の人口を包容す
  - (四) 我國は海國なり
  - (五) 我國土面積の六割二分は林野面積なり
- 二 現代社會に於ける商工業と農林業
  - (一) 我國産業發展の様相
  - (二) 農業の發展を阻害する原因
- 三 農業政策の本質
  - (一) 國家の政治目的
  - (二) 農村の指導者
  - (三) 生産政策としての農村政策
  - (四) 農村政策の轉向

#### 總論

- 四 農林統計の利用
  - (一) 農林業の研究資料
  - (二) 政策の基準
  - (三) 經濟生活の指標(統制經濟と統計)
  - (四) 經濟更生計畫と統計
- 五 農林統計の意義並調査範圍
- 六 農林統計調査の組織及機關
  - (一) 調査の義務者
  - (二) 調査員
  - (三) 調査經費
- 七 耕地統計
  - (一) 耕地概念
  - (二) 耕地に關する調査事項
  - (三) 單位の觀察方法
- 八 作付面積
  - (一) 作付面積の意義
  - (二) 調査方法
- 九 豫想收穫高調査
  - (一) 豫想收穫高調査方法
  - (二) 我國に於ける豫想收穫高調査の實際
- 一〇 收穫統計

- (一) 收穫高の意義
- (二) 對人調査と對地調査
- (三) 米收穫高調査の實際
- 一 家畜家禽統計
- (一) 畜産と農業
- (二) 調査範圍並調査事項
- (三) 調査の時期
- (四) 家畜統計の正確性
- 一二 蠶絲統計
- (一) 掃立豫想及豫想收穫高調査
- (二) 收穫高調査の特殊性
- 一三 水産統計
- (一) 調査の範圍
- (二) 漁船調査
- (三) 漁獲高調査
- (四) 水産養殖調査
- 一四 林業統計
- (一) 調査の範圍
- (二) 林野面積調査
- (三) 林業生産調査
- (四) 造林調査
- 一五 農林被害統計
- (一) 被害の意義

- (二) 被害の調査方法
- 一六 生産價額
- (一) 生産價額の意義と利用
- (二) 生産價額の調査方法

結論

一七 我國農林統計の缺陷と之が改善策

此の講習會で地元潮來町の幹旋振は非常なもので、あやめ丸にての香取神宮參拜、潮來劇場にての名物あやめ踊其の他の催し、納涼花火の打揚等講習員に對して數々の接待、又統計協會行方郡支部としては同支部員全員を以て本講習會の設備、會場の整理、講習員の受付等に付援助され兩々相俟つて好成绩を以て無事本講習會を終了することが出来たのであつて講習生一同と共に謝意を表する次第である。

尙出席者を郡市別にして其の成績を示せば次の通りである

郡市別	統計事務講習會出席者調		講習證書授與人員	出席者
	出席申込人員	出席者人員		
水戸	三	三	三	三
東茨城	五	三	四	四
西茨城	二	一	一	一
那珂	三	二	二	二
久慈	四	三	三	三
多賀	二	二	二	二

鹿島	九七	七一	七一	六二	七〇	七六	眞壁	二一	一八	一八	一八	一八
行方	二四三	一九七	一八四	一二九	一八〇	二二〇	結城	一八	一三	一四	一三	一四
稻敷	八六	五一	五三	五〇	五三	六七	猿島	二一	一六	一六	一四	一六
新治	八九	五五	五九	五一	五八	六〇	北相馬	二五	一九	一九	一四	一九
筑波	二二	一八	一八	一七	一八	一八	合計	八〇三	五九〇	五九一	四九九	五八五

本縣の菜種の産額

農村の春の野の色どり、それは何と云つても山の櫻、畑の菜種、田の綠肥用作物の花盛りである。その内菜種は若ければ蔬菜として食用に供し、花の満開には都會人を農村に招き如何に其の眼を樂しましむることか、人間のみではない、更に昆虫類にもこれを及ぼして居るのである。あの白い蝶、黄色い蝶、はては蜜蜂、どれもこれもが慕ひ寄つて蜜蜂等は更に蜂蜜を提供して人間を喜ばせて居る。更にそれが賈れば植物油として工業用に食用に無くてはならぬものとなる。その大切な菜種の本縣に於ける作付反別は千六百四十四町七反で、これが收穫高は一萬六千五百八十三石、價額は三十六萬五千百十三圓で前年に比し反別で百六十七町九反、收穫高で三千六百六十八石を減じて居るが價額では單價の高騰で五千四百二十二圓を増加した。斯くの如く作付反別の減少したのは、數年來の米の不作に依り米麥の高値が影響して麥の作付面積が増加し菜種の減少を來したものである。

郡市別の作付並生産は次の通りである

郡市別	作付反別	收穫高	價額
水戸	二、五六	二、五二	四、五七
東茨城	二、五八	三、八四	七、五三
西茨城	四、〇七	二、六三	四、〇八
那珂	二、一〇	三、〇〇	一〇、九七
久慈	五、五四	三、五五	一〇、七〇
多賀	三、四六	四、三五	八、二八
鹿島	四、四六	二、三八	四、〇八
行方	二、三〇	一、七六	三、二九
稻敷	一、九七	五、七六	一、二六
新治	六、〇〇	五、七六	一、〇八
筑波	六、三六	五、四四	一、〇八
眞壁	八、〇一	七、五七	一、八〇
結城	七、七六	九、三三	二、八七
猿島	六、九六	六、六一	二、八七
北相馬	三、〇三	二、八一	五、一〇

# 労働統計實地調査主任者會

今秋施行の第五回労働統計實地調査主任者會議は七月十三日午前十時より縣參事會室に於て開會された、當日は會議に先だち山本總務部長の別項の挨拶に續いて川崎統計課長より今回の改正要點に就ての説明あり後議案に依り順次會議を進め別項指示、注意事項の協議を逐げ午後二時終了した。當日の出席者は左記の通りである

- △縣廳 總務部長山本秋廣、統計課長川崎末吉、屬小林綠、屬虎口兼廣、屬郡司常成、屬關三喜、屬成瀬常吉、
- △市町村側 水戸市書記富澤忠二郎、西茨城郡安戸町書記瀧本浩、那珂郡湊町書記高田泰次、全菅谷村書記軍司久治、久慈郡太田町書記滑川敬之介、多賀郡助川町書記補鈴木操、全日立町書記滑川鑑吾、全松原町書記沼田至之、鹿島郡鉾田町書記石上誠、全矢野村書記長谷川伊助、全渡崎町書記野中孝一郎、稻敷郡朝日村書記白田道夫、新治郡眞鍋町書記菱沼貞次郎、全石岡町書記富田直三郎、全中家村書記西脇衛治、全土浦町書記内田信平、眞壁郡眞壁町書記池田與三郎、全樺穂村書記入江憲、全下館町書記補高野澤長二、結城郡結城町書記海老原眞三郎、全宗道村書記青木多聞、全石下町書記山田至豊、全水海道町書記小島久一郎、猿島郡古河町書記横山正一、全岩井町書記大島吉一

只今から會議の案件に付きまして御協議致すことになつて居りますから腹藏なく御意見を開陳せられまして本會議の効果を充分に收めらるる様致したく存じます

## 指 示 事 項

- 一、調査の範圍に關する件
- 二、交通事業體の調査に關する件
- 三、労働調査員、全副調査員の推薦其の他に關する件
- 四、調査趣旨普及に關する件
- 五、調査用印刷物の配付に關する件
- 六、調査の執務順序に關する件
- 七、調査書類の管守に關する件
- 八、調査豫習に關する件
- 九、市町村要計表及調査書類提出に關する件

## 注 意 事 項

- 一、準備調査に關する件
  - 二、陸上運輸業の調査單位に關する件
  - 三、調査事項の記入方に關する件
  - 四、事業崇及労働票其の他の調査用紙に關する件
  - 五、調査の統一に關する件
- 尙調査期日迄には多少の異動あることなれども調査該當見込工場及交通事業體を擧ぐれば左記の通りである

郎全境町書記江崎嘉一

## 總務部長挨拶

本日茲に各位の御參集を煩し一言所懐を申述ぶる機會を得ましたことは私の寔に欣快とする所であります  
現時我國は眞に非常の時局に遭遇致し庶政を一新するの必要に迫られて居るのであります此の非常時局に對應すべき各般の國策の樹立に實行を合理的計費的ならしむる基礎として統計が重要な關係を有することは申す迄もないのであります今後從來の統計を改善整備すると共に統計に従事する職員の一層の精勵に依りまして其の内容を正確ならしめ益々統計の效用を發揮するに最善の努力を致されんことを切望する次第であります  
扱て今回の會議の議題であります所の第五回労働統計實地調査に關しましては過日改正勅令閣令以下諸規定の公布を見ましたので今後之に基きまして調査の圓滑なる施行に盡力せられんことを希望致す次第であります今回の調査からは時勢の進運と社會の要望とに鑑みまして工場鐵山の外に交通業の調査をも加へることに改正されたのであります其の結果は従前の調査に比し労働統計の效用を一層増大することと信ぜらるるのであります就ては此調査を完全に遂行致しまする爲には其の根柢たる地方實査の成績を擧ぐる事が最も肝要でありますから調査客體と直接の關係を有する各位に於かれましては周到なる用意と遺漏なき手配とに依りまして今秋の調査をして優秀なる結果を得せしむる様御盡力を煩したいのであります

郡市町村名	工場(事業體)名	事業の種類	労働者概數
水戸市	いはらき新聞株式會社	日刊新聞	七〇
同	日清製粉株式會社水戸工場	小麥粉製造	五二
同	茨城鐵道株式會社	陸上運輸	七四
同	水濱電車株式會社	同	一三四
同	大水戸自動車株式會社	同	九六
同	井熊製菓株式會社	製菓	五五
同	同	製菓	五五
西茨城郡	友部製絲株式會社	製絲	一四五
安戸町	同	製絲	一四五
那珂郡	同	製絲	一四五
漆町	富崎工場	刻昆布乾麵	一五一
同	鹿志村製紐工場	マニラ麻眞	六二
同	漆鐵道株式會社	陸上運輸	五四
同	羽中村製絲所	製絲	一一〇
久慈郡	同	製絲	一一〇
太田町	中村製絲太田支店	製絲	一六六
同	城北電氣鐵道株式會社	陸上運輸	八一
多賀郡	同	製絲	八一
日立町	株式會社日立製作所日立工場	電氣機械	四、〇四九
同	株式會社日立製作所日立	器具製造	四、〇四九
助川町	電線工場全海岸工場	銅線製造	五、六八七
同	常陸セメント株式會社	セメント製造	一九〇
松原町	中村製絲高萩支店	製絲	一一三
同	昭和人絹工場(十月一日開業の見込)	人造絹絲製造	三〇〇

鹿島郡	鹿島參宮自動車株式會社	陸上運輸	五〇	水海道町	常總鐵道株式會社	陸上運輸	二六二
鉾田町	合名會社田杭澱粉工場	澱粉製造	五〇	猿島郡			
矢田部村	合資會社波崎織詰製造場	織詰製造	五〇	茨城急行自動車株式會社	陸上運輸	一一一	
波崎町	旭製絲合資會社	製絲	二五五	岩井町	春若護謨風船工場	護謨風船	六一
稻敷郡	小口製絲株式會社石岡工場	製絲	二〇三	古河町	昭和製絲所	製絲	一一八
新治郡	飯田製絲場	製材	一三五		分小倉製絲場	同	一〇〇
石岡町	合資會社小林桐材工場	製材	一五〇		丸木製絲株式會社	同	一九六
同	鹿島參宮鐵道株式會社	陸上運輸	一五四		丸善製絲工場	同	一三五
同	三好貝釦工場	貝釦製造	七九		丸萬小倉製絲所	同	一〇〇
同	筑波鐵道株式會社	陸上運輸	一三三		渡邊製絲所	同	一〇〇
同	合資會社楡戸製絲所	製絲	二三〇		飯島製絲本工場	同	八一九
同	豐島製絲所	製絲	三〇〇		飯島製絲第二工場	同	一〇〇
眞壁郡	英自動車株式會社	陸上運輸	五二		株式會社大橋製絲所	同	一八一
下館町	谷口製絲所	製絲	一二三		合資會社須藤製絲所	同	四九〇
樺穂村	合資會社生絲生産組合	同	一三四		合資會社大和屋製絲所	同	一八六
同	眞壁東光社	同	一〇〇		共同絹靴下生産株式會社	メリヤス品製造	二二三
眞壁町	眞壁製絲合資會社	同	一〇〇				一七、一八六
結城郡	錦洲紡績株式會社結城工場	製絲	三五九				
結城町	秋場織物工場	絹綿交織物	一四三				
石下町	會田メリヤス工場	メリヤス品製造	一五				
宗道村							



# 本年度麥實收高

昨年比し九分七厘の減

## 縣統計課發表

昭和十一年九月三日縣統計課の發表に依れば本縣に於ける十一年度麥作反別は

- △大麥 三萬三千六百四十五町七反(前年作付反別に比し五十三町八反一〇割〇分二厘減)
- △裸麥 二千七百三十一町七反(同二百二十二町一〇割七分五厘減)
- △小麥 五萬四百八十四町九反(同二千二百六十九町一〇割四分七厘増)
- △燕麥 八町六反(同五町六反一八割六分七厘増)
- 計八萬六千八百七十九町九反(同一千九百九十八町八反一〇割二分四厘増)

を示した。本年麥作景況は夏作の關係上一般に播種の遅れたると冬季に於ける天候兎角順調を缺き數度の降雪多量にして

統計調査用小票類の註文に就ては、一年分を取纏めて註文する様註文用紙を御送りしたのでありますが、これに依つて註文せず、不足の度毎に若干づゝ註文する町村があり、但し御互に手数を要するのみならず用紙代の殆んど全部が送料にかゝる様な場合もあるもので別に送料を申し受ける必要なければ經營上困難を感じられませんので、今後は斯ることなき様御注意を願ひます

- 雪害を蒙り之が爲生育を阻害せられ登熟に影響を來したるに依り作付反別の増加したるに不拘前年に比し本年實收高は、
- △大麥 七十七萬五千六百二十七石(前年收穫高に比し八萬九千七百二十石一割〇分四厘減)
  - △裸麥 三萬九千六百七十二石(同七千九百九十七石一割六分八厘減)
  - △小麥 六十九萬三千九百二十五石(同六萬四千五百四十四石一〇割八分五厘減)
  - △燕麥 百八十五石(同百三十三石一二五割五分八厘増)
  - 計百五十萬九千四百九石(同十六萬二千二百二十八石一〇割九分七厘減)
- の減收をみた。  
之を郡市別に表示すれば次の如し、



(表中△印ハ減ヲ示ス)

町	大 麥				裸 麥				小 麥			
	作付反別	本年 收穫高	前年 收穫高	前年ニ比 シ増減	反別	本年 收穫高	前年 收穫高	前年ニ比 シ増減	作付反別	本年 收穫高	前年 收穫高	前年ニ比 シ増減
水戸	10,811	28,025	28,035	三	1	10,011	10,011	0	町反	1,331	1,331	0
東茨城	3,755	6,783	7,655	△9,702	3	3,009	4,133	△1,124	町反	3,009	3,009	0
西茨城	1,335	2,945	2,703	△1,412	5	3,085	3,085	0	町反	2,945	2,945	0
那珂	3,099	6,373	7,277	△1,553	5	8,933	10,099	△1,166	町反	7,277	7,277	0
久慈	2,205	5,705	6,588	△1,883	6	7,600	7,600	0	町反	5,705	5,705	0
多賀	7,800	16,033	18,844	△2,811	3	6,699	6,699	0	町反	16,033	16,033	0
鹿島	2,366	4,944	7,000	△2,056	6	6,466	6,466	0	町反	4,944	4,944	0
行方	6,701	13,555	15,944	△2,389	3	8,044	8,044	0	町反	13,555	13,555	0
稲敷	1,566	3,600	3,755	△1,189	4	1,700	1,700	0	町反	3,600	3,600	0
新治	1,878	4,055	4,555	△600	7	1,133	1,133	0	町反	1,878	1,878	0
筑波	1,666	4,007	4,811	△804	1	3	3	0	町反	1,666	1,666	0
眞壁	3,865	9,105	10,066	△861	0	666	666	0	町反	9,105	9,105	0
結城	3,798	11,073	10,811	200	3	577	577	0	町反	11,073	11,073	0
猿島	5,107	11,811	12,666	△855	1	19	19	0	町反	5,107	5,107	0
北相馬	2,011	3,111	3,111	0	4	9	9	0	町反	2,011	2,011	0
合計	3,557	7,757	8,557	△800	7	7,667	7,667	0	町反	7,757	7,757	0

# 春蠶 百八十二萬九千八百貫

## 内白蠶 三十六萬貫余

### 縣統計課の調査

昭和十一年春蠶

昭和十一年に於ける春蠶收購總數量は百八十二萬九千八百六十六貫内白繭種三十六萬三千七百七十五貫黃繭種百四十六萬六千六百九十一貫にして前年收購高百八十一萬七千六百二十貫に比し一萬二千二百四十六貫乃ち零割八厘の増收を示せり

而して掃立後の氣候概して順調なりしも壯蠶期に於て冷濕なりし爲飼育上困難を來し六月十五日現在調査に於ては前年に比し零割五分五厘の減收を豫想せられたが一般飼養者の周到なる管理等に依り如上の成績を見るに至りたるもの如し。郡市別次の如し

町	養蠶戸數		掃立數量		前年收購高		前年ニ比シ増減(△印ハ減)
	白繭	黃繭	計	高	計		
水戸	63	2,769	2,832	1,509	1,323	176	
東茨城	5,081	21,175	26,256	14,514	13,333	1,181	
西茨城	2,789	13,171	15,960	8,644	7,997	647	
那珂	2,594	10,795	13,389	6,688	6,183	505	
久慈	3,000	6,741	9,741	5,962	6,181	781	

鹿多	鹿島	行方	稻敷	新治	筑波	眞壁	結城	猿島	北相	合計
三三三	二九六	二二〇	六八五	九、五五四	七、五七三	四、七四四	六、二一〇	二、四〇〇	二、五七五	五九、四〇〇
八、三三八	一六、二九七	二、三五八	三、七六九	四、六〇九	三、四七〇	三、九七六	三、九四六	三、三九七	二、九〇七	二、九〇七
四、〇八六	一六、八七五	三、八二九	五、九八六	二、三三六	一、〇九二	四、三二一	三、三三三	一、六三三	一、三三三	三、三三三
二、一〇三	七、五七五	六、七九四	一、八三二	二、四二一	三、〇九三	二、四二一	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三
六、〇八六	六、〇八六	七、五七五	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三
五、〇八六	六、〇八六	七、五七五	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三
六、〇八六	七、五七五	八、〇八六	九、五八四	一〇、〇九二	一一、一〇〇	一二、一〇八	一三、一一六	一四、一二四	一五、一三二	一六、一四〇
一七、一四八	一八、一五六	一九、一六四	二〇、一七二	二一、一八〇	二二、一八八	二三、一九六	二四、二〇四	二五、二一二	二六、二二〇	二七、二二八
二八、二三六	二九、二四四	三〇、二五二	三一、二六〇	三二、二六八	三三、二七六	三四、二八四	三五、二九二	三六、三〇〇	三七、三〇八	三八、三一六
三九、三二四	四〇、三三二	四一、三四〇	四二、三四八	四三、三五六	四四、三六四	四五、三七二	四六、三八〇	四七、三八八	四八、三九六	四九、四〇四
五〇、四一二	五一、四二〇	五二、四二八	五三、四三六	五四、四四四	五五、四五二	五六、四六〇	五七、四六八	五八、四七六	五九、四八四	六〇、四九二
六一、五〇〇	六二、五〇八	六三、五一六	六四、五二四	六五、五三二	六六、五四〇	六七、五四八	六八、五五六	六九、五六四	七〇、五七二	七一、五八〇
七二、五八八	七三、五九六	七四、六〇四	七五、六一二	七六、六一〇	七七、六一八	七八、六二六	七九、六三四	八〇、六四二	八一、六五〇	八二、六五八
八三、六六六	八四、六七四	八五、六八二	八六、六九〇	八七、六九八	八八、七〇六	八九、七一四	九〇、七二二	九一、七三〇	九二、七三八	九三、七四六
九四、七五四	九五、七六二	九六、七七〇	九七、七七八	九八、七八六	九九、七九四	一〇〇、八〇二	一〇一、八一〇	一〇二、八一八	一〇三、八二六	一〇四、八三四
一〇五、八四二	一〇六、八五〇	一〇七、八五八	一〇八、八六六	一〇九、八七四	一一〇、八八二	一一一、八九〇	一一二、八九八	一一三、九〇六	一一四、九一四	一一五、九二二
一一六、九三〇	一一七、九三八	一一八、九四六	一一九、九五四	一二〇、九五二	一二一、九六〇	一二二、九六八	一二三、九七六	一二四、九八四	一二五、九九二	一二六、一〇〇〇

### 蠶 秋 夏

(限日五十月一十期告報村町市)

養蠶調査方法に依つて各飼育者毎戸に付所定の調査票を用ひて自費別に其の掃立数量と其の收購高を調査するのですが兎角隠蔽する傾向がありますから養蠶組合等の資料を参考として正確に調査する様願ひます、又飼育者の中には組合に入らざる者や自家用に供したるものもありますから調査洩れない様注意を要します。戸数は其の季節に於て養蠶に従事した凡ての戸数を調査するので同一戸が其の季節に數回飼育した場合でも

數戸として掲げず一戸として掲上するのです、尙養蠶實戸數調査上夏秋蠶の飼育戸数を調査する際養蠶をも飼育せしや否をも調査して春蠶をも飼育した場合には調査票の欄外に「蠶兼」の箇所「春」と記入することを注意願ひます。蠶種掃立數量及收購高に就ては五月號實務道場春蠶と同様ですから参照して上欄層繭の別を誤らないことと備考の記述に特に注意を願ひたいであります。



## 全國の水稲作況

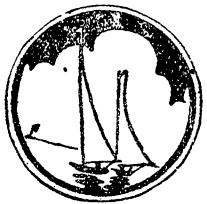
### 農林省統計課發表

昭和十一年全國の水稲作況に就て農林省統計課の發表に依れば本年の水稲は東北及北陸地方に於ては近年稀有の積雪なりし爲局部的には苗代の播種遅れたるものありしのみならず全國一般に苗代初期に於ける氣温低く苗の生育阻害せられたる傾ありしも其の後の天候の回復に因り其の生育概して良好なるを得移植も東海、近畿以西の一部地方に於て遅延を見たる外概ね順調に行はれた。

而して移植後に於ては七月上旬に至る迄低温寡照に經過し稻の生育思はしからざりしも七月中旬より天候回復し氣温高く日照多かりし爲分蘗、伸長共に促進せらるるに至つた、尙本年は地方によりては螟蟲の發生を見たるも概して病蟲の被害尠く又七月上、下旬に於ける豪雨の被害も一部の地方に止り八月十五日現在に於ける水稲作況は全國的に之を觀れば普通作況を僅に超ゆる「稍良」の狀況に在り

其の地方別を示せば左の如し

北海		東北區		關東區		北陸區		東山區		東海區	
青森	秋田	福山	岩手	宮城	山形	福島	茨城	栃木	群馬	千代田	神奈川
新潟	石川	福井	山梨	長野	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫
和歌山	奈良	徳島	香川	高松	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分
鹿兒島	宮崎	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島
沖繩											



# 内閣統計講習會に出席して

多賀郡磯原町役場書記 長瀬 昇

第十八回内閣統計講習會が七月二十日より二十日間東京帝國大學講堂に於て開催されるに當り、淺學非才なる私

が本縣統計協會より派遣せられ、非常に有益な講義を聞くことが出来たことは眞に喜びに堪えない次第である。

茲に甚だ拙文ではあるが、其の概況並に所感の一端を書いて見たいと思ふ幾分でも御参考になり得るならば幸甚である。

私が統計事務に従事するやうになつたのは、昭和十年四月からであるから實に最近のことである。勿論統計學の素養、經驗は更にないのであつたから事務分掌の都合で余儀なく擔任させら

以て、統計學の全般の概念及之に關聯する二三の學問を講習するのであるから、御擔任の講師も聽講する私共も最大の効果を得んとすれば其處に容易ならざる苦心がある、殊に時恰も三伏の酷暑の折であれば心身共に大いに緊張を要した次第である。

れた時は全く當惑して仕舞つた。去年兎にも角にも一年有余を過しその行程を反省するとき全く汗顔に堪えないものである。

今般縣統計協會より講習會に派遣せられたからと云つて、直ちに平常の實績良好であつたかの如く思惟する者があるとするならば誤解も亦甚しいので私に限つては、決してそうではなく、なんとか人並に、水準まで引上げたいとの協會の温情に依つて派遣されたに過ぎないので此の点聊か他の聽講生諸氏とは其の趣を異にしてゐることを自覺して居るものである。

此の講習は二十日間の僅かの會期を

中央	外地	地方	其他	計
第一回	八	七	一	一六
第二回	六	七	一	一四
第三回	四	六	一	一一
第四回	六	九	一	一六
第五回	三	八	一	一二
第六回	三	五	一	九
第七回	六	一	一	八
第八回	二	三	一	六
第九回	一	三	一	五
第十回	一	三	一	五
第十一回	一	三	一	五
第十二回	一	三	一	五
第十三回	一	三	一	五
第十四回	一	三	一	五
第十五回	一	三	一	五
第十六回	一	三	一	五
第十七回	一	三	一	五
第十八回	一	三	一	五
計	三三	三三	三	六九

尚今回の聽講生は左の通りである。

中央	外地	地方	其他	計
廳書記	八	一	一	一〇
廳各廳	六	一	一	八
廳府縣	三	一	一	五
廳村町	一	一	一	三
廳市町	一	一	一	三
廳其他	一	一	一	三
廳計	一	一	一	三
廳手等	一	一	一	三

## 統計課員異動

八月四日、八月卅一日、九月一日の三回に亘り左の通り統計課員の異動があつた

- (統計課) 關 三喜
- 總務部會計課勤務ヲ命ス
  - (商工水産課) 池田 正雄
- 總務部統計課勤務ヲ命ス
  - (以上八月四日) 郡 司 常成
  - (統計課) 關 郡 司 常成
- 總務部會計課勤務ヲ命ス
  - (統計課) 統計主事補 岡崎 弘
- 任茨城縣廳總務部統計課勤務ヲ命ス
  - (統計課) 嘱託 齋藤 清市
  - (商工水産課) 雇 部 利男
- 茨城縣統計主事補ニ任ス 總務部統計課勤務ヲ命ス
  - (以上八月三十一日) 山中 平守
  - (統計課) 雇 山中 平守
- 茨城縣書記ヲ命ス 松原稅務出張所勤務ヲ命ス
  - (以上九月一日)

## 統計調査員異動

(上は新任) (括弧内舊)

- 昭和十一年四月一日 那珂郡村松村 崎 利雄 (大内 義)
- 全 全 行方郡延方村 小峰 泰 (石山 秀雄)
- 全 全 筑波郡上郷村 秋元 善市 (岡田 清吉)
- 窪田 虎吉 (窪田 榮助)
- 安田 芳一郎 (安田 助三郎)
- 石濱 謙吉 (土田 長吉)
- 岩田 幸之助 (田村 八十松)
- 土田 進 (土田 彦三郎)
- 飯島 清一郎 (伊藤 幸一郎)
- 鶴見 亨 (淺野 眞市)
- 光田 直 (澤邊 菊二)
- 全 四月二十日 東茨城郡石塚町
  - 横山 利朗 (海老根 義夫)
  - 横山 陸 (萩谷 一郎)
  - 田上 光夫 (柳橋 鐵之介)
  - 片根 庄次 (片根 馬吉)
  - 西野 爲正 (一木 彌平太)
- 昭和十一年五月一日 稻敷郡大須賀村

統計主事補	1	1	元	1	元	1	元
市町村吏員	1	1	空	空	1	空	
事務囑託	4	1	1	1	1	4	
巡查	1	1	6	1	6	1	
雇人等	2	3	3	元	3	3	
其ノ他	2	1	1	1	2	7	
計	3	6	5	5	2	2	
前年度	1	5	3	?	?	3	
内修了者	1	2	?	?	3	3	
備考	今回の修了者は四一名の内三九一名なり。						

今回の講師並に講習科目は次の通りである。

- 一、一般統計
  - 東京商科大学教授 藤本 幸太郎
- 一、人口統計
  - 内閣統計局統計官 森 數樹
- 一、労働統計及労働統計實地調査
  - 内閣統計局書記官 水谷 良一
- 一、経済統計
  - 内閣統計局統計官 中川 友長
- 一、農林統計
  - 農林省統計官 長畑 健二

- 一、商工統計
  - 商工省統計官 川澄 已知雄
- 一、數理統計
  - 内閣統計局統計官子爵 齋藤 齊
- 一、統計實務
  - 内閣統計局統計局統計官 杉田 泰二郎
- 一、憲法及行政法
  - 法制局參事官 入江 俊郎
- 一、經濟學
  - 東京帝國大學教授 荒木 光太郎
- 一、財政學
  - 東京帝國大學教授 土方 成美

炎熱と闘ひ居眠りを征服し致々として二十日間に亘る講習も滞りなく終了した、今迄曾て踏み入りたることのない學問の領域——統計學の大体の輪廓を臚氣ながらも想像することを得るに至つた、勿論學問的研究は尙今後に俟つべく且亦實際問題も経験未だ淺き私にとつては將來に残された問題である蓋し、理論と實際とは一致すべきは理想ではあるが事實は兎角一致し難い

ものである、然し一應の學問的研究をなすことなくして實務にたつさわることの無暴さは、恰も羅針盤なくして太平洋を航行せんとする船舶の如く危険である、今回の講習が私にとつてどれ丈け有益であつたかは多言を要しない唯茲に特に留意すべきは、講習を受けながらと云つて、直ちに信頼性ある正確な統計がひとり出て出来るものでは決していないので、それには大なる不斷の斷力が極めて肝要であると云ふことである。將來實務の上に幾分でも裨益するところあれかしと祈るものである

◆ 今や統計機關は整備し町村に於ても之に要する費用は未だ充分ならずと雖も相當多額の統計費を計上し其の完璧を期してゐるのである。

統計事務を分掌する私共の責務は勿論重大ではあるが、單に私一人のみの力を以てしては到底充分の成果は期し得ないので、茲に實地調査機關である處

の統計調査員の努力に俟つべきものが多い譯である、従つて正確な數字を得るも得ざるも一に統計調査員の双肩に懸つてゐるのであるから調査員の責務も亦重大なりと云ふべきである。然して其の責務は連帶責務であつて十人が十人眞剣でなければならぬ、自分一人位はと思ふことの如何に悲しき結果を招來するかを考ふるならばかりそめにも疎かには出来ぬ、此の点大いに心すべきことであらう、幸に調査員と私共は一丸となつて、更に統計事務の向上に精進し以て此の責務を果すことを念願とするものである。

### 視察記

新治郡林村 統計主任 小松崎 雅一

自動車は道といふ道到る處に走り、愛宕山よりの電波は津々浦々に飛んで日本否世界の隅々まで文化の光は輝い

板橋芳介	(森田 喜次郎)
根本半次	(平井 常助)
飯塚 直	(秋本 邦一郎)
坂本貫一	(坂本 文二郎)
石毛 七五三松	(森田 春吉)
篠原時次	(清水 猪之助)
宮本竹松	(中澤 金藏)
松本高之助	(福山 権平)
飯塚隣平	(岡野 齊助)
全全	新治郡七會村
豊崎 徳重	(鈴木 利通)
全	六月二十五日 多賀郡黒前村
樺村 清	(椎名 武彦)
根本信司	(根本 良春)
須田良一	(須田 章)
全	六月三十日 稻敷郡十倉島村
椿 吉次	(萩原 雄次郎)
全	七月一日 東茨城郡山根村
園部夏吉	(石島 武男)
全	全 鹿島郡大同村
長 健夫	(増設に依る新任者)
菅谷慎一	(長岡 幸男)
全	全 眞壁郡古里村

渡邊 傳一郎	(大島 清五郎)
板橋 芳郎	(板橋 傳市郎)
全	七月三日 鹿島郡高松村
平内 清太郎	(猿田 鐵三郎)
全	七月十日 鹿島郡徳宿村
石崎 敏男	(石崎 庄之助)
城山好道	(鎌田 正夫)
田山勘藏	(田山 仙之助)
全	全 稻敷郡金江津村
根本 優	(川口 庸三)
全	全 筑波郡鹿島村
飯塚 茂	(豊島 英一郎)
沼尻 滋	(色川 勇)
全	全 新治郡美並村
小泉 義男	(車田 宗之助)
全	七月十四日 東茨城郡波里村
安藏 清	(安藏 善太郎)
全	七月十七日 那珂郡檜澤村
平塚 定芳	(大森 丑次)
小室 廣	(小林 政之介)
全	七月三十一日 結城郡豊加美村
宮田 龜吉	(小林 太助)
全	八月一日 新治郡和村

てゐる時だ、やれ農村更生だ、自力更生だと、頭上に打ち鳴らされる警鐘は一体何を物語るものであらう、先祖代々の田地に親ゆりの鋤を持つて、朝に出で夕に歸る仕事、年々の生産額に大した變化もない、やせにやせきつた農村、このまゝで現代に生きて行かれるのだらうか、あまりにも呑氣過ぎはしまいか、如何に自然相手とはいへ、何時までもこうしてゐては自滅するのを待つばかりだ、筑波山の東麓青垣山にこもつたまるばの地、山根盆地の平和な農村の一角にもこうした不安は訪れて來た。

本村中堅人物十名を集めた、林村統計調査員の會合、統計上に示す数字は決して十名の樂觀をゆるすものではなかつた、むしろ不安を否落膽を禁じ得なかつた、十名の者は一心同体經濟論を携い村の寄合の度毎に出席した、そして極力統計思想の普及徹底を期した一年二年やつとのことで計統が小に

模範村の實地視察調査をなすことに決した。

四月二十八日午前七時本村役場前に集合した一行十一名は視察の途に上つた、自動車は希望に満ちた一行を茨城縣廳前へと運んだ。先づ我等の縣廳を一巡し、農人形銅像前にし記念撮影をなし、直に目的地久慈郡賀美村に向つた。

佐川村長始め去る三月十六日農林大臣より輝く大臣賞の榮譽に浴した助川統計主任より實地調査の方法、内容調査研究、其の他の事柄を微に入り細に亘つて説明を受けた、一同感激の裡に賀美村を辭した。今視察記を述ぶるに當り誌上を通して深く御厚志に對し感謝して止まない。

視察員一同何物かを得たるが如く、深く感銘する處あり、無言の裡に速からず努力の報へられんことを期し、時既に午後四時なるも全郡小里村に向つた、それより福島縣東館、矢祭山、袋

しては一家の經濟のため、村のため、大にしては國家のためであるといふことを認識してくれた。併しながら自身自身の經濟の爲に缺くべからざるものであるといふことの認識は仲々深められない、今一段の努力だ、私共は村民一般の會合の席上で、君がたはそんなに働いても働いてもなぜ赤字が出るか氣付かないのか、一冊のノートに一ヶ年の家計を記入して見よとまで聲を大にして叫んだ、努力に努力、なんとかして續けて來たが未だ統計の活用は意の如にならない。

隔月一回發行の百頁に足らない茨城統計隅から隅まで讀んでみる。何かよい工夫はないものか、こうした氣持で一ぱいだ。

統計模範村!! 統計模範!!  
こうした見出しに目を止めた、行つて見よう、自分達ばかりであせつても仕方がない、立派に出來上つた處、そこに私共の道を見出さう、調査員一同は

田灌等をめぐり歸村の途についた。願ひば一日の旅、それは僅に十五時間だされど我等の日頃の努力へ暗示する處絶大なるものあるを感じ、統計報國の念をいやが上にもかたからしめた。

畑調査の難

調査員任命當時

の憶ひ出

鹿島郡大同村 第六區調査區 大谷 武雄

田 五十二町五反二畝十八歩 五百五筆

畑 五十二町九畝五歩 三百一筆

私は山本義臣氏の後をうけて任命されたもので、氏が不幸にして廿九歳で物故されて二ヶ月目でした、氏は村内群を抜いての模範調査員だったので(氏から直接引継ぎが出來ず参考になる事も聞けなかつた)爲に後釜の私の苦心も容易でなかつた、氏

久家茂市 (豊崎利一)	栗山弘 (大關要)	全	須藤善一 (島田福治郎)	石井環 (増説に依る新任者)	森田要太郎 (全)	本多重治 (全)	眞家重治 (全)	齋藤正之助 (全)	鶴井重男 (全)	全	廣田幸三郎 (塚田彌四郎)	全	渡邊芳市 (渡邊榮四郎)	全	寺門徳重 (加部東寅之助)	全	平野長男 (小松又彦)	全	大里角治 (大里善一)	全	宮本武一郎 (小竹貞市郎)	全	郡司耕一郎 (海東幹治)	全	八月九日 猿島郡中川村
-------------	-----------	---	--------------	----------------	-----------	----------	----------	-----------	----------	---	---------------	---	--------------	---	---------------	---	-------------	---	-------------	---	---------------	---	--------------	---	-------------

町村統計主任者異動

(上は新任括弧内舊)

昭和十一年四月一日 稻敷郡大宮村 内藤致一 (豊崎省吾)	全	小田倉靖 (加藤登喜)	全	宇津野竹雄 (山田正二)	全	蘭部力雄 (大澤巖)	全	飯田朋春 (青木金之介)	全	石塚正 (小倉茂)	全	八月十日 久慈郡世矢村	×	江崎造酒衛門 (黒澤平)	×	×
------------------------------	---	-------------	---	--------------	---	------------	---	--------------	---	-----------	---	-------------	---	--------------	---	---

の如く氏より以上に決心して、當時廿一歳の私が役場へ日参して大崎主任の指導を仰ぎまた他區調査員の經驗談を聞き歩いた、幸い暇の多い私だつたので一踏邁進する事が出来た。

昭和七年三月である——。百五十町歩の山林中に點在する畑五十二町歩を之から吾がものとして調査しなければならぬ任に當つたのだが、さて、自分の現在住んでゐる土地とは言ひ一通りや二通りの苦心ではなかつた第一、一里にも延々して居る持區の端へ行つては如何に地圍を擴げて解らない所が多かつた。人家は遠いし、畑に出て居る人に聞こうと思へばそれが女であつたり、子供であつたり、または相當の男であつたとしても、此の畑が、字何の何番地で何畝歩まで有るなど、は知れよう筈もなかつた、大体にして小作人が多いので字名すら知らず、聽こうと思つた自分が反つて向ふ

兩側にトーモロコシが作つてある等の時の畝歩割

第三に、裸麥と大麥の見分け及び等位

第四に、備考欄休作反別の記入等々……で其の當時自分で随分細心の努力をした心算だつた。

早や今年で五年の昔——憶ひ出のまゝ幼稚な經驗を寄稿する所以であります。

## 縣北見學の一日

行方郡大和村 六 統 生

昭和十一年五月六日我等一行十二名は、本村統計主任平塚氏と農林技手木村氏兩君引率の下に、本縣廳及縣北大子町、賀美村に於ける統計調査事蹟並に特別經濟更生上に關する、參考資料を得んと欲し、見學の旅に就く、本村役場前より自動車二臺に分乘し、號音一聲發車したるは、恰も午前五時也、

から「年貢を一俵とられるですが、本當は何反歩位あるんでせう等ととんでもない事を聞かれる様な譯だつた。それから漸く解つた土地も畝歩でまごつく事があつた。原簿面は一反歩となつて居るけれど一反五畝もあつたり、八畝位ひしが無かつたりして、はて、これは別の所か知らず、地番が違つて居るのか知らず、などと思つたりした。

何しろ山林の間で前者は知らず／＼に耕ひ擴げ、後者は不丹精の結果、萱や篠が生込んで仕舞つたものだ。それから宅地内にある畑にも苦心した。今までの家の屋敷の中に畑があると氣付かず居たものが地圍を見て初めて知り、早速調査に行つたものだ、そして丁寧に統計調査でお宅の裏の畑を見に来たんですが——と言つた迄はよかつたが、其の家の主人はじろ／＼長時く黙つて私を見て居たが顔を洗つて來いときたもんだ。そして遂々其の儘調査もせず歸つて來た事があるが——

清新なる朝の大氣は車窓を襲ふて、轉た爽快を禁じ得なかつた。北浦沿岸なる、津澄、武田の諸名邑を通過する頃は、濃霧死ら太古の昔を偲はしめつゝ、電燈未だ消えざる銚田を經、磯濱縣道を全スピードで疾走し、磯濱町にて左に折れ、直線なるモダン縣道を一トツリで、我れ等が憧憬の水戸に到り縣廳構内に停車す。

我が住める縣を統へる館こそ雲に聳えて雄々しけれ

廳内を遍巡し、屋上展望所に昇る、流石隆昌なる大水戸の都市を、一眸の裡に納めて、快絶を極む、遙かに常磐神社を拜し、徐ろに國體明徴の感を深ふす、時幸ひに、朝靄一掃、輕風脉々碧空朗かになつた、一行快哉を絶叫し好日和を喜ぶ。更に統計課を訪ひ、小林縣廳の統計に關する一場の説明と、目的地に對する諸種の便宜とか與へらる、玄關前に於ける記念撮影を了し、一行謝意を表して廳門を辭す、此れよ

それは後できいて見ると家屋敷まで抵當に入つて居て首が廻らないで居た處だそうで私を土地の周旋で來たと思ひ違ひをして意地燒き紛れに追ひ飛ばしてやらうとしたのだそうだ。

次に地目が變換して居るのにも惱んだ。現在畑として作つて居るのに變換届を出してなかつたり、畑だつたのが山林であつたり、そうかと思ふと一町歩もある一筆の畑の真中が二畝宅地だつたりする事もあつた。

◇

こうしてやうやく調べ上げて、實際に作物を作る畑が五十二町九畝五歩であると算盤をはじた時は随分嬉しかつた。この五十二町九畝五歩が自分のものとして調査するのだ……これから……と言ふ氣が興つた。さて其の之れからだにも亦面喰つたのだ。

第一に、本畑反別と見積反別の則定第二に、一反歩の畑に桑があり、小豆があり、陸稻があり、茄子があり

り大子方面に向ふ途次、谷中二十三夜尊及藤田東湖先生の墓を車中に默拜しつゝ、那珂川架設の木橋を渡り、田村野邑の間を縫ひ、何時しか久慈川畔に至る。水光一碧拭ひる鏡の如き、溪流の急湍輕踏而も妍雅なるを賞し、沿岸の峰巒絶壁にして恰も削るが如き、岩崖に躑躅の眞紅なる、若葉の清新亦愛す可し、絶景の偉觀に、驚異の眼を開き、嘆賞措く克はざるを覺ゆ。

羊腸たる石路曲折せる坂道を、自動車を操り漸くにして袋田村に到る、遙かの瀑音の響轟に一行躍りつゝ、案内子に導かれ險坂を踏み辛ふじて幽邃なる瀧見不動堂前に到る、三拜茲に遊杖を止め觀賞稍久ふす、瀑は直下數仞白龍怒號岩間を匍降の狀、爲めに草木震動岩石碎けんとして、餘沫飛霖の偉觀、到底筆舌の及ばざるや遠し、袋田の瀧があつた。

山間に宛ら布を垂るゝとも見えて眞白き袋田の瀧

岩を出て岩に激して岩に和し岩よ  
り落つる四度の瀧かな

身は即ち桃源の仙境にあるの感を深ふし、退去を欲せざるも時間の關係上再觀を期して割愛す、尙袋田新温泉を探りては、湧出量の多なる浴客の蝟集に驚く、更に車中の人となり大子町に突進す、途上毎戸に翻々たる國旗の掲揚しあるに恠み、里人に問ひば恰も壯丁検査の當日なりと、一行感揚暫くにして、大子町役場に到りたるは午前十一時頃と覺ゆ、刺を通じ來意を告げ樓上に導かれ、喫茶の饗應を忝ふしつ、特別經濟更生上に關する尤も有益なる資料を見學、且つ懇特なる説明を拜聽する榮を得一行欣快たり、要するに舉町一致男女老幼よく更生に全力を捧げ今日の大成を建設したるは感激極まり褒辭に窮す、就中農休日の嚴定、假裝行列、農村劇等の施設よく平凡俗樂の裡に、更生心理を喚起する杯、其の着眼の凡ならざる、全國に範を垂る可き

を深感す。

更生の花も實もある話をば我れを忘れてきくやしはらく、宏大なる新築集荷所に於て、而も東都市場、弊價優秀なる松、竹、梅三等級別の促成胡瓜の集積しあるを賞觀する等、在留殆んど時餘、得る所尠少なからざる也、時將に正午たらんとするを以て、深甚の厚意を謝し、急辭某店に會し晝飯を認む、速忽自動車に命じ、矢祭の勝景を探る清瀧岩に激して雷と鳴り、碎けて雲を敷くの狀、掬すべき、溪流に沿ひて北す、沿岸の石峰、岩槽、妙姿、奇態、配するに山躡躑數千株眞紅の花燃ゆるが如く點綴す、造物の至美、自然の勝地、畫手も亦之れを寫す克はざるを覺ゆ、豈新耶馬溪の稱過賞にあらざる也耶馬溪の奇勝も斯くや矢祭の躡躑花さく今日の眺めは入道石達磨岩の奇勝を珍として洞穴觀音を拜す、奥久慈の天地に嘯き其の風景を恣に滿喫し茲に遺憾なし。

世の靡りも埃りも立たぬ奥久慈の一日の旅の面白きかな、八溝山下なる釣橋を揺らるる儘に渡りつゝ、千山萬水の送迎を快とし、談笑の裡に、賀美村役場に到りたるは午后四時過ぐる頃でした、許を得て樓上に昇る卓を擁して統計に關する尤も有意義なる、坐談の説明に一行感を深ふし得る所や甚大なり、重積する書類は皆至誠の結晶、實蹟の表顯、而も係員の特産物として、無上の寶典たり、獨特考案になる調査書類及正確なる計數表等極めて好參考の資料豊富なるに、驚かざるを得ざる也、統計模範村として縣内否全國に鳴る、豈偶然にあらざる事を直感すると同時に、我れ等も驥尾に附さん事を心に銘す。

統計の調査に名ある賀美村の役場を訪ふ、今日の嬉しき時間の許すあらば種々指導を仰がんとす切なるも、如何せん歸路の迫るに驚き、厚意を感謝しつゝ辭去、直ちに車内に納る。回想す

れば往年我が視察員同場訪問種々指導待遇を辱ふせしを、遙かに默謝敬意を表しつゝ、玉簾の清瀧に、旅懷を潔め車中同觀音を拜禮しつゝ、太田を過ぎ着水したるは午後五時過ぐる四十分、生憎雨氣急催して行進至難、於て、某亭に憩ひ夕飯を喫し、疲勞を慰する數時間、幸ひ雨の小降りを機として辭亭、車人となり、不夜城の全市の珍風景を探るも亦一興あらんとて、縦横街路を徐走、賞讃を終り、更に車首を轉じて歸路に向け、快速力を以て疾走一瞬間にして歸省し、旅裝を解く時に、時計は十一時を報す。

### 優良統計村視察

#### 統計協會鹿島郡支部長

本支部員一行二十名千葉縣統計優良町村視察のため五月八日正午千葉縣廳訪問統計課長殿より訓話を受け野中主事補殿の案内にて君津郡根形村視察、

翌九日夷隅郡大原町を視察しました、兩町村を拜見した感想の一端を述べ貴重なる誌上を汚します、幸ひに關係者の御參考になりますれば私の最も光榮とする所であります。會員中事務の都合上沼前村、息柄村、波崎町が欠席されましたことを遺憾に存じます。

一行誰れしもが異口同音に此の視察は最も有意義なりとの言葉を聞き定に嬉ばしく感じました。

夫れは一行が兩町村を拜見して自町の調査方法や調査員の活動状況や書類の整備其の他に於て如何にも幼稚であることを自醒したことであらうと思はれます。

野中主事補殿に引率せられ根形村に行きますと役場と別棟の會議室と覺候しき卓上には所狭き迄關係書類が山と積まれあり手に取らざるも外見のみにて内容の如何に完備し居ることが判りました。

果せるかな一應野中主事補及主任者

の説明を受け居る間に理事者は勿論のこと、主任者と調査員が一心同體となり熱心事務に當り居ることは敬服一驚するの外はありません。

統計思想を一般に普及し理解を得る迄には相當苦心されたさうですが今日では一般に理解し只統計圖表、村勢要覽を配付する位の程度の由です。

調査員手當は年額二十圓で會議は隔月に定例会を午後一時より大抵午後五時頃迄(隨時四回)茶菓で散會するそうです。

但村規程を以て縣より表彰せられざる調査員を村長より表彰し優遇することになつて居ります。

調査員の誠心誠意事に當り居ることは調査票其の他報告書内容等に於て明かか、申すまでもなく特に主任者の熱心なることは統計日誌(大正十三年より會議の要領質疑應答等細部に涉り記述す)統計改善簿(昭和七年より主任者に於て改善を要する事項を記述し村

長の決裁を受け實行し亦村會を経べき事項は村會の決議を経て實行する等）事務豫定（各調査に付き（月々の分）一ケ年の豫定調査員報告の遅速再調査の顛末村より縣へ報告の顛末等を記入し置き一ケ年成績作成の参考に供する等）

前述の如き至れり盡せりの計畫でありますが故に一般統計事務は押して知るべしであります。

大原町は折悪しく土曜日なると汽車時間の關係上詳細に拜見し得ざりしを遺憾に思ひましたが根形村同様諸帳簿は勿論のこと諸調査書類の整備され居ることには亦敬服の外ありませんでした。

同町調査員は自己用の書類、算盤實地調査用物件一切は役場に備へ置き自宅には何にも置きません。調査時期に役場の通知に基き一同集合し自己の書類物件を携行調査に従事し必ず役場に戻り整理して散會し、翌日亦役場へ集

合前日通りの行動をなすものであります。別に調査員指導會なるものなく亦年手當を支給せず前述の如く各種調査報告は何れも役場にて整理報告するを以て一回一回の手當を支給す一調査にして勤務日数は七十日内外なる由此の支

給方法は縣下同町のみと聞きました。以上は極めて見聞の一部分に過ぎません「百聞は一見に如かず」と云ふ諺があります、どうか各位に千葉縣統計の御覽をお進めします、そして御互に本縣統計の向上刷新を計りたいと思ひます。

### 投稿 歡迎

- 一、種類に制限ありません（論説、所感、體驗實記、質疑、文藝其の他）奮つて投稿されたい佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれない。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。（但し誌上の匿名は差支ありません）
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたす。
- 一、十一月號は十月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと。



## 短 歌

### 丹 四 郎 選

#### 『初秋雜詠』

（實）  
北相馬郡東文間村 堀越 正直  
片付けて收穫とちいを待つわが納屋の廣き明るさは目に清しけれ  
草刈りの人にはなれて居る牛の朝露ながらなる草食みにけり  
北相馬郡高野村 倉持 公太郎  
稔り田の垂穂がひまに畦草を刈りかがまりし笠ひとつ見ゆ  
もろこしの垂り穂明るく月の出の片照りうけてしづもれる見ゆ  
新治郡西豊田村 古橋 梅吉  
掘り起せし土の濕りのしつとりと秋の朝は清しかりけり  
今朝來たる西瓜賣より買ひしらし納屋に持ち來ぬ大き西瓜を  
鹿島郡大同村 西 浦子  
北浦の水の面は白く輝きて秋暑けれどはや早稲の出穂  
小山田の畦道ゆけばつぎに蝗はわれに飛びつきにけり  
猿島郡幸島村 小倉 白雨  
初秋の藪の高値を思ひつゝ丘の畑に桑摘みにけり  
久慈郡染和村 豊田 貞次  
しつとりと雨にぬれつゝ鳳仙花午時過ぎし庭のひそけさ  
行方郡武田村 堀 草風  
氣忙しく稼ぎを終へて吾子としも寛く宵のただに樂しき

行方郡大和村 内田 六統生  
ところく赤き小旗のひらめくは坪刈りをする田にしあるらし  
新治郡藤澤村 吉澤 喜一郎  
日ざかりはいまだも暑し少女子の桑摘みて居り山かげの畑に  
久慈郡小里村 吉村 失名生  
油蟬鳴く奥羽路の午下り白衣の行者ただに急ぐも  
新治郡太田村 五十嵐 康尊  
空澄める早生田續きの利根邊り穂波大きく風に揺れつゝ  
同 奥野村 海老原 松光  
いまだしも暑さは残る夕小田にしきりなりけり稲妻のかけ  
行方郡武田村 境 勇  
稔りよき垂穂の上に抜けいでて走り穂見せぬ早稲の走り穂  
眞壁郡五所村 谷 貝 英二  
ひらひらと風にゆられてるかんへうを畑から見れば涼しそう  
なり  
新治郡小幡村 羽生 稻  
裏畑のとうもろこしを吹きなびけ夕風立ちぬ端居のわれに  
稻敷郡生板村 大野 芳雄  
照る月にうつる物影ありありと秋ぞしられて涼しかりけり  
○ 四 郎  
紫湯花の日に對く花も老けにつゝこの庭かげの秋立ちにけり

#### 次回課題

『秋雜詠』『月』 十首以内





俳句

前田猶春選

題『扇』『金魚』

風鈴の鳴るときうごく金魚かな 新治郡藤澤村 柳田華水  
 若き所化扇大きくつかひけり 行方郡武田村 鳥次ゆた香  
 白扇に一筆ものす詩客かな 同 境 翁 水  
 小田城のベンチに憩ふ扇かな 筑波郡小田村 前川 麗 鳥  
 宵の衝金魚を買うて戻りけり 稲敷郡奥野村 海老原松光  
 大いなる水からくりや金魚店 新治郡瓦倉村 増子よし女  
 芝生の陽扇によけて通りけり 同 同 人  
 涼しさに宵の扇をたゞみけり 眞壁郡五所村 谷貝英二  
 脊に遠く雲の峰あり金魚賣 鹿島郡豊郷村 石津思水  
 満月の窓につるして金魚玉 北相馬郡東文間 堀越宵雪  
 三疊打スタンドの扇ざわめきぬ 猿島郡幸島村 小倉宮市



川柳

山中緋郎選

『ハイキング』

ハイキング歸りは汽車に乗ると決め 鹿島郡大同村 西 浦子  
 ハイキング出掛ける迄の忙しさ 眞壁郡五所村 谷貝英二  
 ハイキング金も元氣もなく歸り 鹿島郡豊郷村 石津思水  
 ハイキングやはり土産を待つてる子 行方郡武田村 堀 草 風  
 男装にすつかり馴れたハイキング 東京市瀧野川區 小澤良英  
 ハイキングリュクサクが大きすぎ 東京市本所區 磯野吟柳  
 ハイキング其の夜夫婦の若がへり 行方郡武田村 鳥次とり坊  
 鯛にコースをかへたハイキング 京城市 小島大口坊  
 子も何か脊負つて嬉しいハイキング 弘前市 平尾上魯

差し水に金魚さかだち泳ぎけり 筑波郡久賀村 關野玄月  
 ひとり座を離れて扇使ひけり 稲敷郡君原村 小松澤霞翠  
 氷屋の店につられて金魚玉 結城郡上山川 山中久一郎  
 水撒きし朝の舗道の金魚賣 鹿島郡大同村 西 浦 子  
 白扇の書くこともなく古びけり 北相馬郡高野村 倉持公太郎  
 銀扇の踊る灯ちかく光りけり 同 同 人  
 若き日の情熱の歌や古扇 行方郡武田村 向 農 子  
 講習會林間に扇鳴らしけり 新治郡藤澤村 吉沼喜一郎  
 聴衆の扇の波の静かくな 潮來講習會 行方郡武田村 堀 草 風

佳作

雨の池に金魚浮びぬ其の閑 行方郡大和村四鹿 内田六統生  
 皇帝の御製かしこき扇かな 同 同 人

次の課題

一、秋風 虫 各題通じて十句限り  
 一、締切 十一月五日限り

靴摺れの友を勵ますハイキング 東京市王子區 日野櫻笑子  
 口だけは達者に女ハイキング 朝鮮全南 高田口紅  
 ハイキング都が近いコンバクト 函館市 船樹夢坊  
 ハイキングカメラを持つて遅れ勝ち 京都市 小坂ふじ彌  
 〔佳作〕 東京市浅草區 中村鐵兜  
 菟印へ一人残つたハイキング 大阪市南區 鳥居柳笑  
 ハイキング活氣を見せる瀧の音 東京市江戸川區 乾 龍之介  
 ハイキング笥の水のうまさなり 〔秀 逸〕 眞壁郡川西村 大久保 實  
 ハイキング歸りドライブしたくなり 同 同 同  
 ハイキング遂に無口になつたきり 同 同 同 緋 郎

次號課題

『菊』 葉書五句以内  
 締切 十月二十日  
 宛名 茨城縣廳内統計協會

# 本誌廣告料 値下斷行 大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて以て、初期の目的に副ふことが出来ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

◆特別  
一頁表紙金貳拾圓なり金拾五圓に變更  
表裏金拾五圓を金八圓に  
半頁同金拾五圓を金八圓に

◆普通  
一頁 金拾圓を金八圓に  
半頁 金五圓を金四圓に  
四分ノ一金 參圓を金貳圓に  
▼同一廣告を引續き二回以上のときは  
一割五分、五回以上のときは二割の  
割引をします。

▼廣告に寫真挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。  
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内  
茨城縣統計協會

## 編輯後記

今年の夏は随分暑かつた、殘暑も珍らしく暑かつた。景物として五穀の豊穰となり豊年踊りの太鼓は、笛々としてひびいてゐる。今年位圓滿な秋はなからう。今年位恵まれた秋はなからう。米の調査もこれからだ、秋季調査もこれからだ、今年の秋の收穫は何と出るか、必ずや農家をしてほゝえまゝむる様な數字が出るだらう、これこそ商人も勤め人も等しく望ましいことだ。然し勝つて兜の緒を締めよ』と云ふ諺がある、この秋こそこの諺を忘れてはならない。

× 本誌編輯中に編者病をえて後半ささをさ

であつたが幸に協會諸賢の寛き同情によつてどうやら事なきを得た。  
統計模範町村に掲げた栗原村の手當を公共事業に寄附した事は、事は小さいがその心根は誠に美しい私はこれを誰れにもやつて欲しいとは言はないがかうした心掛だけは誰れにも望ましいものだ。

× 讀者の領分とでも言ふか讀者諸君の寄稿は毎號多くなつたのは喜ばしい。この勢でどしどし投稿してもらひたいものだ。

—富岡如夢—

昭和十一年九月十三日印刷  
昭和十一年九月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

發行兼 編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會